

DOSHISHA BUSINESS SCHOOL: DBS

# MBA PROGRAM

# 2022

同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻  
MBAプログラム2022



# DBS

同志社ビジネススクール  
同志社大学大学院ビジネス研究科

## Contents

研究科長からのメッセージ	1
同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻とは	
専門職大学院について／同志社ビジネススクールのミッション	2
DBSの「アドミッション・ポリシー」および「ディプロマ・ポリシー」	3
DBSの教育プログラム	4
DBSで養成される実践的応用力	5
社会人が学びやすい環境	6
開講スケジュール	7
履修パターン	8
カリキュラム	
DBSの「カリキュラム・ポリシー」	9
カリキュラム	10
主要科目の概要	12
専任教員・客員教員および担当科目	14
兼任教員・客員教員・嘱託教員および担当科目	20
公開講座・特別講座	22
同志社MOTコース(ダブル・ディグリー)／国際連携プログラム	24
グローバル経営研究専攻(修士課程)	25
学習環境	26
2022年度募集概要	28
修了生からのメッセージ	30
DBSネットワーク	31
サポート	32

## 研究科長からのメッセージ



ビジネス研究科長 山下 貴子

同志社大学大学院ビジネス研究科(同志社ビジネススクール：Doshisha Business School、以下DBS)は2004年に設立され、社会人が働きながら日本語で学ぶビジネス専攻およびビジネスでの活躍を目指す世界の留学生が英語で学ぶグローバル経営研究専攻による教育を通じて、ミッションを反映した人材を輩出するとともに、教育とビジネスの実践を支える研究および社会貢献活動を行うことを通じて、経済社会の持続的な発展に貢献するビジネススクールとなることをビジョンとして掲げています。

DBSの特色のひとつは、同志社大学の建学の精神である「良心教育」に立脚するということです。「良心教育」の考え方は、創立者の新島襄による「同志社大学設立の旨意」(明治21年)に示され、智育だけでなく心育や徳育といった人間的側面を重視し、他者への思いやりの情に厚いキリスト教主義を徳育の基本としています。これをDBSの教育に当てはめると、経営理念を重視すること、すなわち、それぞれの企業が、健全な価値観の下、わが社は何を目的とし何をもって世の中に貢献するかを考え、実行する姿勢を重視することに通じています。企業経営は存続のため利益を確保する必要があることは当然ですが、DBSではこのような良心教育の考え方にに基づき、企業経営においても、正しい価値観の下、何を目的とし何をもって世の中に貢献するかを考え、実行する姿勢を重視しています。これは、昨年からの世界的に新型コロナウイルスのパンデミックが起こり、なお収束が見えない中において、とくに重要な考え方です。

DBSのもうひとつの特色は、京都の伝統と革新をもたらす知恵を教育に反映することにあります。京都は、古来の歴史を背景に京都文化を軸とする伝統産業が存続するとともに、世界的な競争力を持つ企業を輩出しています。近年の経営学の用語を用いれば、「伝統」は既存分野での事業の一層の発展を図る深掘りにも通じ、「革新」は試行錯誤を伴いつつ新たな事業分野を探索することに通じます。DBSでは京都に位置するビジネススクールの使命として、伝統を踏まえ不断の革新を生み出すことを通じて、経済社会の変化に的確に対応し企業や組織の健全な成長を担えるリーダーシップの育成を重視しています。さらに、京都には自立的発展を目指す中小企業が多いことを反映し、中小企業と地域経営およびイノベーションを重視した科目構成も特徴として

います。DBSには、大手、中小・ベンチャーを含む多数の企業、および、医療、福祉、教育、公共部門など各種分野の企業、組織の人々が集い、さらに、グローバル経営研究専攻に集まる世界約30か国の学生ともあいまって、相互に刺激を与えあって学習効果を高め、多様性と包摂性をもって行動する人物の育成を重視しています。経済社会の変化に的確に対応し、企業や組織の健全な発展を推進することのできる高度な知識の獲得を目指し、コロナ禍においても教員と学生が一体となって創造性と工夫を凝らして、効果的な教育環境の新常態(ニューノーマル)を作り上げています。

企業、組織で実務を経験するうちに切実な問題意識を持ち、経営に関する体系的な学習の必要を感じていらっしゃる方は多いと思います。そのような方々にぜひ、同志社ビジネススクールで学び、学んだ成果をもってそれぞれの企業、組織でリーダーシップを発揮し、それを通じて経済、社会に大いに貢献していただきたいと切に願っています。

ビジネス研究科長

山下 貴子



同志社大学大学院ビジネス研究科は、2018年度に財大学基準協会の認証評価を受け、同協会の定める経営系専門職大学院基準に「適合」として認定されました。

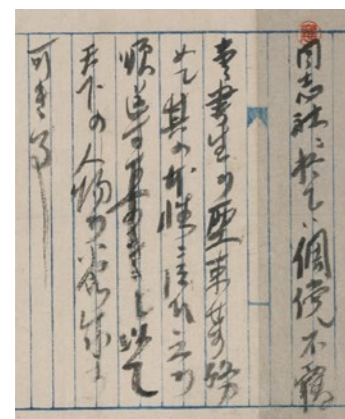
## 専門職大学院について

専門職大学院は高度専門職業人の養成を行うことを目的とした大学院です。もともと大学院は研究者の養成と高度で専門的な職業能力を有する人材の養成という2つの目的を持っていましたが、経済・社会の発展と共に価値観の多様化が進み、また科学技術の高度化、経済や文化のグローバル化、情報集積の革新化などにより多くの複雑な問題が生じてきていますので、これらに対処するために高度な専門性を有する人材や、多様な視野で経験をもち国際的に競争や貢献のできる人材の必要性が高まってきています。専門職大学院にはこのような幅広い高度専門分野における人材育成を担う大学院としての機能が期待されています。

博士課程前期としての修士課程とは異なり、実社会において高度専門知識、技能を実践的に発揮できる人材を育成することが目的ですので、専門職学位課程においては、それぞれの専門分野に関連する高度な知識を修得すると共に、それらの知識を実社会に応用できる能力の養成が必要となります。

このため、実社会において一定の実務経験を備えた社会人が、それぞれの経験を踏まえて専門分野について一段の知識習得、思考の深化を目指して学ぶ場として専門職大学院が位置付けられることとなります。つまり、「社会人の学びの場」であり、様々な業務分野を経験された社会人が集まり、現実の問題を専門知識を活用しながら解きほぐしていく場が専門職大学院です。

### 倜儻不羈



#### 新島襄の遺言を徳富蘇峰が口述筆記したもの

##### 原文

同志社ニ於て八倜儻不羈なる書生ヲ圧束せず務めて其の本性ニ従ひ之ヲ順導し以て天下の人物を養成す可き事

##### 現代語訳

同志社では倜儻不羈(てきとうふぎ)なる書生(信念と独立心に富み、才気があって常規では律しがたい学生)を圧迫しないで、できるだけ彼らの本性にしたがって個性を伸ばすようにして天下の人物を養成すること

DBSでは、グローバル化するビジネス環境には新島の遺言にある「倜儻不羈」な人材が必要であると考えています。

## 同志社ビジネススクールのミッション

同志社大学大学院ビジネス研究科(DBS)は2004年4月に設置された専門職大学院です。DBSのミッションは、同志社大学の建学の精神である良心教育を教学の基本理念としつつ、京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間を尊重し企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を育成することを使命としています。

このミッションを反映した人材を輩出するために、社会人が働きながら日本語で学ぶビジネス専攻およびビジネスでの活躍を目指す世界の留学生が英語で学ぶグローバル経営研究専攻において、教育とビジネスの実践を支える研究および社会貢献活動を行うことを通じて、経済社会の持続的な発展に貢献するビジネススクールたらんというビジョンを掲げています。

さらにDBSの大きな特色として、京都の伝統と革新をもたらす知恵を反映することがあります。昨今の企業経営を巡る経済環境の様々な変化や経済活動の多様化・高度化は、従来の企業内教育では対応しきれない多くの問題を招いており、DBSには企業や社会が求める優れた人材教育を実践する場としての役割が期待されているところです。このような要請に応えるべく、常に企業と社会に開かれた教育と研究を通して、グローバルな視野の下、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出し、経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成する教育を提供していきます。

## アドミッション・ポリシー

ビジネス研究科ビジネス専攻は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系の専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

### ビジネス研究科ビジネス専攻の求める学生像

1. 多様で広い視野を持ち、経済のグローバル化や技術革新・地球環境問題において積極的にビジネス分野で活躍をめざす学生。
2. 中小企業の起業・成長・継承をめざす学生、あるいは、地域の経済・社会の発展に貢献する意欲を持つ学生。
3. イノベーションに取り組み、単なる「ものづくり」企業からの脱皮と、市場のグローバル化、製品等のコモディティ化に対応しうるマネジメントのあり方に解をみつけようとする高い意欲を有する学生。
4. マーケティングの分野で専門的な知識を獲得し、企業や組織の発展に寄与する意欲を持つ学生。
5. 会計・ファイナンスの分野で専門的な知識を獲得し、社会、経済、企業の発展に寄与しようとする学生。
6. 企業を取り巻くビジネス環境の現状と今後の動向に関心を持つとともに、ビジネス環境に関する知識を駆使して、社会、経済、企業の発展に貢献することをめざす学生。
7. 特定の専門領域にとらわれず、組織マネジメント、人的資源管理、経営戦略等に関する総合的な知識を活かして、経営のさらなる高度化を図ることを企図している経営者、あるいは、次世代経営者としての職にある学生。

### ビジネス研究科ビジネス専攻の入学までに身につけてほしいこと

1. 学習の基礎となる知識・教養に加えて、いずれかの事業分野における実務経験と専門的知識またはそれに準ずる学識や経験を身につけていること。
2. 上記の知識や経験に基づき、柔軟かつ論理的な思考力、判断力、表現力を持ち、自ら問題点を発見し、それを解決するため学習する力を持っていること。
3. 自らの事業分野または関心のある事業分野の課題解決と社会的課題解決への貢献のため、主体性をもって多様な経験や能力を持つ人々と協働して学習する意欲を持っていること。
4. 国内外の経済社会への高い関心の下、企業・組織が直面する諸課題や自らが取り組むべき課題を認識しまたは強い問題意識を持ち、ビジネス研究科で学ぶ目的が明確になっていること。

### 入学者選抜制度

これらの知識・経験、思考力・判断力・表現力、意欲、目的を有しているかを、書面および口述試験を通じて判定します。

## ディプロマ・ポリシー

[下記の資質・能力を備えた学生にビジネス修士(専門職)学位を授与します]

ビジネス研究科ビジネス専攻(以下では「本専攻」という)は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成することを使命としている。このため、本専攻の教育課程で所定の修了要件を満たす過程において、以下のような能力・資質・感性を修得した人物に「ビジネス修士(専門職)」(MBA)の学位を授与する。

#### 1. 人としての「良心」を中核に行動する能力

あらゆるビジネスの場面において、たとえ困難な局面においても、良心を基礎とし、諸課題の解決に当たりビジネスの成果を挙げつつ、企業・組織としてあるいは起業家として経済社会で果たすべき役割の実現に向けて行動できる。

#### 2. ビジネスの創造とソリューション能力

グローバル経済と地域社会、いずれの領域においても、伝統とイノベーションに基づく独創的な事業創造を推進し、事業が直面する諸問題を解決し、それを通じて企業や組織の持続的な成長を可能とする戦略を策定し実行できる。

#### 3. 経済社会的役割を果たしうるリーダーシップ能力の具備

企業・組織において事業の創造と諸課題の解決を図りつつその経済社会的役割の実現に導き、あるいは、地域経済社会の活性化を牽引するリーダーシップを発揮できる。

#### 4. 国境、地域、国籍を超えた相互理解能力

他国や他地域との言語や文化の相違を乗り越えて相互に理解でき、事業を遂行できる。

#### 5. グローバルな視野を備えたプロフェッショナリズム

以上を満たし、ビジネスパーソンとしての高い能力とグローバルな視野を有し、社会的責任感と志を持ってビジネスを実行できる。



## DBSの教育プログラム

DBSの教育課程を修了するとビジネス修士（専門職）  
Master of Business Administration：MBAの学位が授与されます



優れた企業経営者となるには、自身の経験だけでは十分ではありません。優れた先人の経験に照らして自分の経験を相対的に位置づけることや、先人の叢智に学ぶことがきわめて大切です。「学問とはわずかなときの間、数百千年の人類の経験を受けとることである」「学べば学ぶほど何も知らないということが分かるようになる。何も知らないと分かるようになるほど、もっと学びたいくなる」のです。学問と実践の間には深い溝があると思う人もいますが、実は、意外にその距離は離れていないのです。

上記のことを踏まえて、DBSにおける教育は次のステップで展開されます。まず、コアとなるビジネスの基本的な専門知識と必要な能力の修得を目指します。これらは、いつの時代、どこの国、どんな産業、組織においても共通して変わらぬ必須条件です。こうした基本的な知識、能力を修得することでMBAに期待される幅広い基盤形成が実現します。次に、それぞれの人材が活躍する様々な分野、業種、職種に対応した高度専門性を身につける段階に進みます。ここでは、それぞれの目的に即した科目を履修し、問題解決型の分析を学びます。こうして、専門知識をいかに実践的に活用するかという応用力が磨かれる事になります。そして、最終段階では、自らが設定した課題について、これまでに蓄積された先人たちの叢智を確認したうえで、未解決の問題にどのようにアプローチすればよいかを長いストーリーとして記述するソリューションレポートの作成に取り組みます。

いかに流暢に話せる人でも、また、スマートなプレゼンテーション資料を作れる人でも、それらの人が説得力のある簡潔な文章が書けるわけではありません。データを活用し、ロジックを一つひとつ積み上げることで、初めて優れた文章が完成します。解決案の提示を文章で行うこと、また、レポート作成プロセスでの体験は、皆さんをさらに大きく成長させることでしよう。

## DBSで養成される実践的応用力

MBAとしての実践的応用力は、「ソリューションレポート」の作成によって磨かれます。「ソリューションレポート」の作成は、演習科目である「プロジェクト研究」→演習科目である「プロジェクト研究基礎」および「プロジェクト研究」により、それぞれのテーマを専門分野とする教員の指導の下に進められます。テーマが多岐の分野にわたる場合は、複数の教員が相互に協力して指導に当たるシステムになっています。

### ソリューションレポートとは

「ソリューションレポート」と研究者養成のための大学院における修士論文との違いはどこにあるのでしょうか。次の表をご覧ください。

	ソリューションレポート	修士論文
研究動機	実務経験に基づいた問題意識から生まれる動機	研究関心および研究のなご一層の進展
蓄積された叢智の活用	実務経験、書籍、論文、雑誌記事、新聞記事、統計データ等	書籍、論文、雑誌記事、新聞記事、統計データ等
研究方法	記述的方法、統計的分析、フィールド研究、文献レビュー等	文献レビュー、統計的分析、モデル分析、数理的モデル、実験室実験、歴史研究、フィールド研究等
論文の価値	実践的インプリケーション	既存研究の進展、新たな研究的知見

研究者養成のための大学院では、通常、5年間の研究期間を前提に研究を進めます。そのため、最初の2年間で、研究を行うための専門分野・周辺分野の知識の獲得と研究対象分野の研究蓄積の全容把握、研究を実施するための研究方法論を学びます。修士論文では、研究対象分野の研究蓄積の全容把握

握ができていないことを示す文献レビュー論文になることが多いのです。修士論文を踏まえて、独自に設定した研究テーマについて、研究完成にもっとも適した研究方法を採用して、オリジナルな博士論文を完成させます。一方、ビジネススクールでは、実務経験に触発されて設定したテーマについて、研究を通じて実践的インプリケーションのあるレポートを作成します。限られた修学期間中に修得できる研究方法是限定されているかもしれませんが、研究者の卵たちが採用する多様な研究方法を使用してももちろんかまいません。実務的インプリケーションは、十分な証拠、明快なロジック、既存知識の確認等があって初めて導出することができるのです。「…べきである」「…と思われる」「…と推察される」という文章を書きたくりますが、「べきである」と断定する根拠を示すことはとても難しいことです。「…と思われる」「…と推察される」という文は、ロジックが断絶していることや思考を途中で停止したことを自ら宣言しているわけです。

### 実務に直結するソリューションレポート

研究者の卵たちが書く論文よりも、実務経験という社会人のみが体得した知識や経験が追加されること、さらには、実践的インプリケーションを必ず持たなければならないという点で、ビジネススクールで作成する「ソリューションレポート」は、研究論文よりも一段と高度なものが要求されることになるでしょう。「問題発見」→「問題分析」→「問題分析結果（実践的インプリケーション）の提示」というプロセスを経て、「ソリューションレポート」は完成します。完成に至るプロセスでの体験は、MBA取得後に、間違いなく実務に応用できるものとなるでしょう。

- ソリューションレポートのテーマ
- 文献渉猟方法(文献・資料DBの活用方法)
- レポート執筆方法
- 引用・脚注の方法
- 参考文献リスト表記法

レポート原稿執筆  
推敲

- 校閲(ロジック、章立て、段落立て、文章等)
- 追加文献・データの探索

レポート原稿修正・加筆  
推敲(満足できるまで何度も)

### ソリューションレポートの完成

### ソリューションレポートのテーマ例

- 「技術選択の意思決定に関する研究  
—新技術への挑戦と技術的方向転換の観点から—」
- 「介護の品質とリスクマネジメント  
—利用者満足向上と働きやすい職場環境の両立にむけて—」
- 「医療に携わる製造業におけるビジネス・エコシステムの構築  
—サステナブル・プラットフォーム・モデルの提言—」

## 社会人が学びやすい環境

働きながら学ぶということ、それは「時間的な制約の中でいかに効率的に計画を立て、それぞれの目標に向かっていくか」という問題に対処することでもあります。この問題に効率的に対処するために、DBSでは、様々なキャリアデザインに対応できるカリキュラムを提供すると同時に、専任教員が入学から修了まで一貫して指導に当たる体制を敷いています。これにより、一人ひとりのバックグラウンドに応じた科目選択が可能になります。また、それぞれの目標に向けた効率的な履修計画、あるいは問題解決に向けた専門知識や手法の修得についても、専任教員によるサポートが得られます。このような充実した指導体制により、限られた時間の中で仕事と勉学とを効率的に進めることが可能となり、設定した目標が達成できるのです。

### データで見る学生の姿(下の円グラフ)

- **年齢構成** — 30歳・40歳代が中心  
原則として社会人を対象としているため、職務経験をもつ30歳代・40歳代の働きながら学ぶ社会人学生が大半を占めています。また、毎年若干名の学部新卒者も入学しています。
- **主な出身業界** — 多様な背景  
製造業やサービス業従事者が比較的多く見られますが、かなり多様な業界から学びに来ています。
- **出身学部** — 自然科学系出身者も多い  
技術畑で一定の職務経験を積んだ自然科学系学部出身者が比較的多く見られるのもひとつの特徴です。

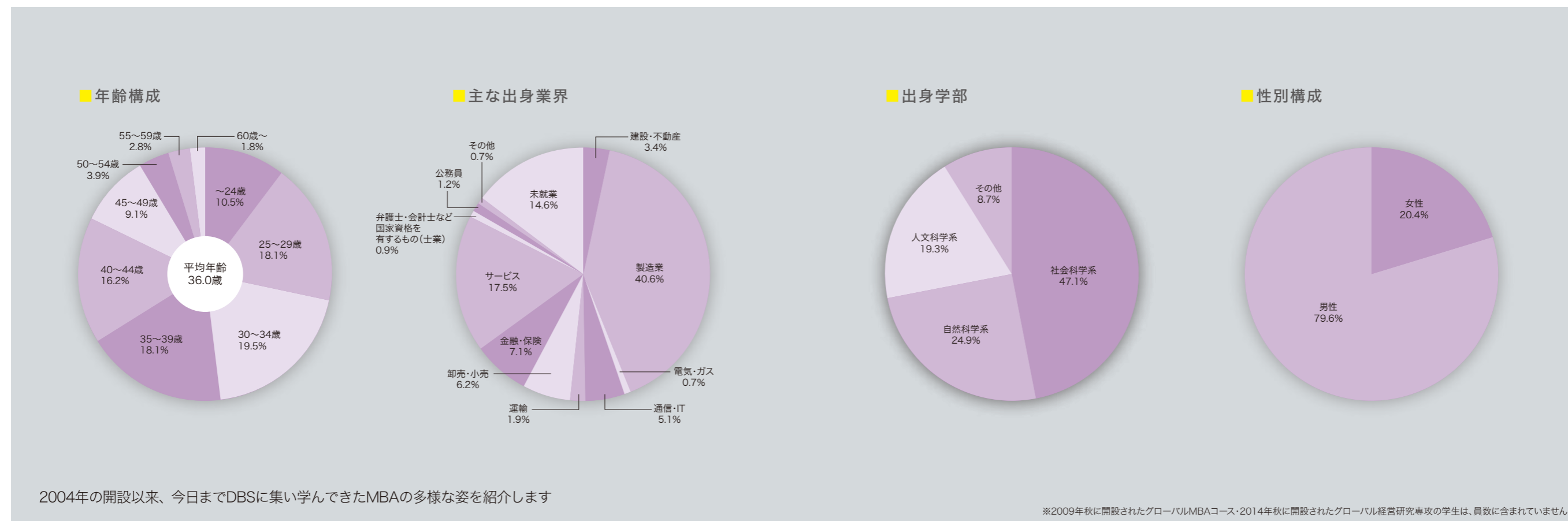
## 開講スケジュール

社会人が学びやすいように、DBSでは、今出川校地（寒梅館）のほかにも大阪（梅田）のサテライト・キャンパス内に教室を置いています。平日の夜間には、大阪サテライト・キャンパスでも今出川校地と同じ教員による同じ授業を開講しています。例えば、平日夜間に利便性のよい校地で2、3科目受講し、土曜日の昼間に今出川校地で2科目を毎学期受講すると、2年間で無理なくDBSの教育課程を修了することができます。

寒梅館に設置されている図書室やその他の学習スペースは年間を通じて24時間利用可能で、平日には仕事で時間が取りにくい方も、週末等に十分時間をかけて勉強できるよう配慮されています。

ソリューションレポートの作成指導が行われるプロジェクト研究基礎、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱを除くと修了必要単位46単位のうち、40単位を講義で取得する必要があります。修了希望年限を考慮し、計画的に受講計画を立ててください。

	月	火	水	木	金	土	
今出川	1限 9:00~10:30	今出川校地で開講 ※主にグローバル経営研究専攻科目					土曜は今出川校地で開講
	2限 10:45~12:15						
	昼休み 12:15~13:10						
	3限 13:10~14:40	今出川校地で開講 ※主にグローバル経営研究専攻科目					
	4限 14:55~16:25						
	5限 16:40~18:10						
	6限 18:25~19:55						
大阪	7限 20:05~21:35	平日夜間は 今出川校地および 大阪サテライト・キャンパスで 同じ科目を曜日を变えて開講					
	6限 18:25~19:55						
	7限 20:05~21:35						

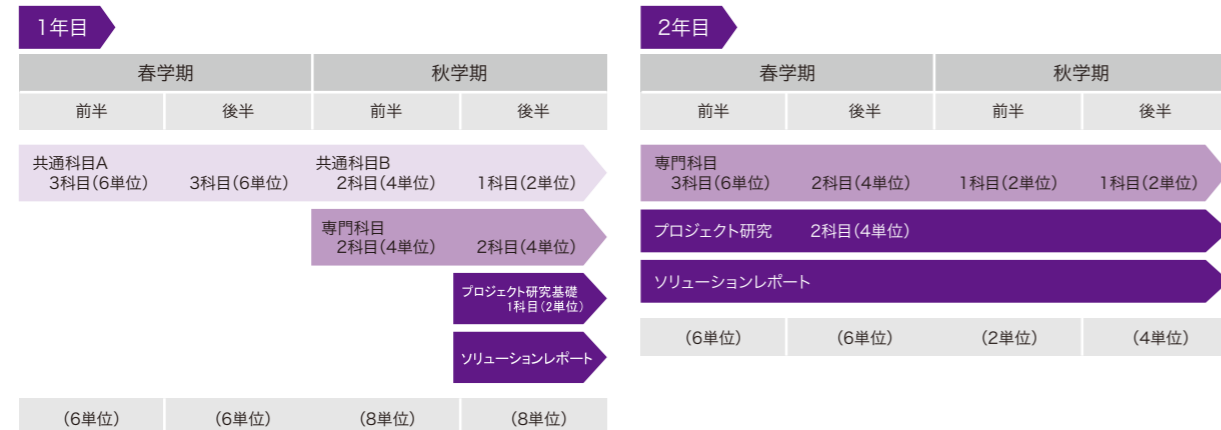


## 履修パターン

### 履修パターン(2年修了の場合)

個々人の目的に即したカスタムメイドのカリキュラムが組めます。

各学期開始前に個別の履修指導を行います。これにより、個々人のキャリアデザインに即した履修計画を作成し、効率的な学習を進めることが可能になります。



### 修業年限

標準修業年限は2年です。ただし、個人の状況に合わせて3年修了を選ぶことができます。

### 学期・授業

入学は、毎年4月で、春・秋の2学期制です。各学期は前半と後半に分かれています。

授業は、1回に2時限連続(90分×2)で開講します。1つの科目は、8週間(試験期間を含む)で完結し、2単位が修得できます。

### 履修計画

●2年修了の場合、1年目にMBAとしての基礎的な専門性を修得するために「共通科目A」(各専門分野の基礎科目)および「共通科目B」(各専門分野の発展科目)を主に履修します。秋学期後半には「プロジェクト研究基礎」(必修)で本格的な「プロジェクト研究」の準備を進めます。そして、2年目に設定したテーマについての「プロジェクト研究」(必修)に加えて、プロジェクト研究遂行に必要な「専門科目」を履修しながら、「ソリューションレポート」を作成します。

- 入学前の学習歴、職務経験等から、各専門分野の基礎知識を有している場合は、「共通科目A」をスキップし、「共通科目B」「専門科目」を履修することができます。ただ、自らの知識の確認と知識の体系的整理を行うことも重要ですので、「共通科目A」の履修を推奨します。
- 社会経験がない場合は1年目にフィールドスタディを履修し、一定期間のインターンシップなどを体験することが効果的です。
- ソリューションレポートはプロジェクト研究を通じて作成していくこととなりますが、1年目から自らの問題を明確にし、テーマの設定に取り掛かることが必要です。

### 修了要件

下記の要件を満たしたものを課程の修了とします。

- ①本課程に原則として2年以上在学すること。
- ②所定の46単位以上を修得すること。
- ③ソリューションレポートの審査に合格すること。

### 取得学位

ビジネス修士(専門職)  
Master of Business Administration (MBA)

## カリキュラム・ポリシー

本専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、共通科目A及びB、専門科目群の学習を通じて、ビジネスの現場に求められる①専門知識の獲得、②思考力や問題解決に必要な判断能力、プレゼンテーションによる表現力の錬成、③主体的な学生同士の議論を通じて、多様性を重んじ協働して学ぶ態度、を体系的に養成することができるようカリキュラムを編成している。

教育内容、教育方法、評価方法については以下のような方針をとっている。

### 1. 教育内容

#### (1) 科目構成

実務に必要な基本的な知識から専門的知識まで網羅できるよう、共通科目A、共通科目B及び専門科目群を設置している。

共通科目Aは、6つの専門分野それぞれにおける基礎科目である。MBAとして不可欠な知識を獲得するために、自らの専門分野外の科目についても網羅的な履修が推奨されている。

共通科目Bは、6つの専門分野の基礎科目の知識をさらに発展させる科目である。

専門科目は時代に即応した持続的成長を実現できるビジネスパーソンを育成するために幅広い専門分野について必要な科目を設置している。

科目分野は「中小企業・地域経営」、「イノベーション」、「マーケティング」、「会計・ファイナンス」、「ビジネス環境分析」、「ゼネラルマネジメント」の6分野に分類されている。「中小企業・地域経営」分野には、中小企業、ファミリービジネス等の経営、あるいは企業継承を目的とした専門性の修得を目的とした科目を設置。「イノベーション」分野には、企業のCTO等を展望した人材を育成するためにMOTの専門性を高めることを目的とした科目を設置。「マーケティング」分野には、幅広いマーケティング業務に従事できる専門性を育成するための科目を設置。「会計・ファイナンス」分野には、企業のCFO等を展望した人材を育成するために、財務関連の専門性を高める科目を設置。「ビジネス環境分析」分野には、外部環境の分析から経営戦略に活かす専門性を高める科目を設置。「ゼネラルマネジメント」分野には、組織や組織間でのマネジメントに活かす専門性を高める科目を設置。

#### (2) プロジェクト研究

2年修了生は1年次の秋学期より、3年修了生は2年時の秋学期より、専門科目の履修等によって修得した知識をもとに、担当教員の下で学生自ら課題を設定、その分析を行う「ソリューションレポート」の作成に向けての調査・研究を実施する。同じ分野の類似したテーマを課題として取り上げる学生同士が互いに議論し、情報交換しながら理解を深める場としても機能している。教員はプロジェクト研究の場における議論の整理をし、専門的な指導を行うことで議論や理解の深化を助ける。主として担当する教員は一人であるが、修了年次の9月上旬に行われるプロジェクト研究の中間報告の場等を通じて、複数の専任教員が適宜協力し、学生が設定した課題に関して理論面、実務面双方から指導を行う。

### 2. 教育方法

#### (1) 履修指導

春学期、秋学期のそれぞれの履修登録期間の開始前に、教員が担当学生に対して個別に履修指導を行っている。これにより、個々の学生の多様な経歴や将来のキャリアデザインに即した履修計画を策定することが可能になる。

#### (2) 科目配置

昼間に仕事を持つ社会人学生が無理なく履修でき、かつ、体系的な学びのガイドラインとなるよう共通科目A、共通科目B及び専門科目の開講時期が配慮されている。共通科目Aは、1年次の春学期前半・後半、秋学期前半に配置されており、多くの科目は土曜日に開講される。共通科目Bは、春学期後半、秋学期前半・後半に配置される。平日夜間の今出川教室・大阪教室、あるいは土曜日昼間の今出川教室で開講される。専門科目は、年間を通じて配置される。これらの科目は、平日夜間の今出川教室・大阪教室、あるいは土曜日昼間の今出川教室で開講される。

#### (3) 教育方法

MBAの教育方法は、座学による基本知識の習得だけでなく、ビジネスの現場における課題への的確かつダイナミックな対応能力を身に付け、実践的経営能力を育成するために、ケース・スタディを用いた議論や、実証的リサーチ、プレゼンテーションなど主体的な学びに重点を置いた授業形式を採用し、問題解決型の能力を養成している。議論やプレゼンテーションを繰り返すことを通じて、問題発見とその解決力、多様な意見の理解や他者を説得するためのコミュニケーション・スキルを高めていく。

### 3. 評価方法

#### (1) 修了要件と評価

本専攻を修了するためには、①原則として2年以上の在学期間を要し、②共通科目A・B及び専門科目を20科目(40単位)以上、プロジェクト研究基礎・I・IIを3科目(6単位)の合計46単位以上を取得したうえで、③ソリューションレポートの審査に合格する必要がある。各科目の成績はGPA制度を導入し、A+, A, B+, B, C+, C及びFの7段階で評価される。

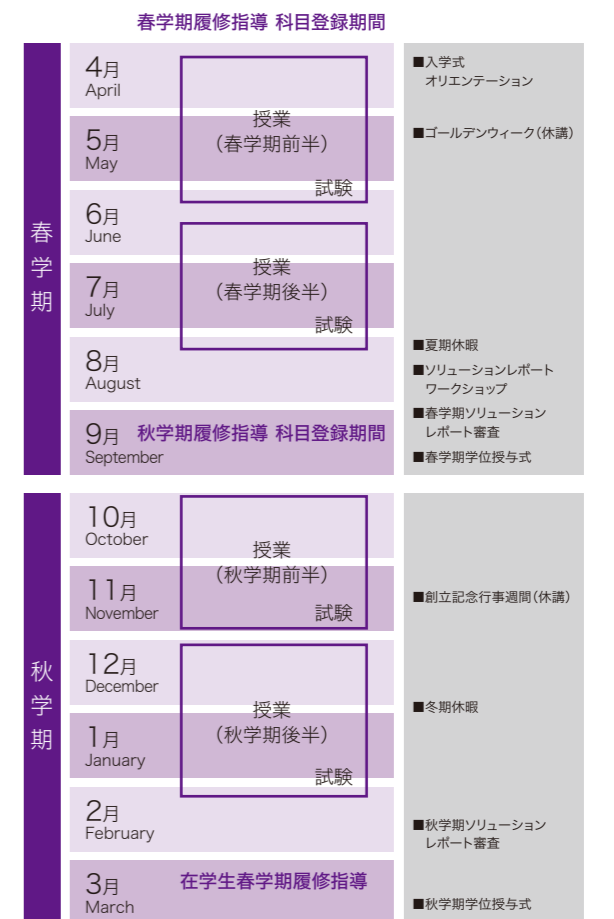
#### (2) ソリューションレポート

プロジェクト研究の履修を通じて、MBAとして修得した知識を具体的な事例に適用した問題解決型の「ソリューションレポート」を作成していく。

ソリューションレポートは、学生個人が自らの問題意識に基づいて現実の社会、企業における諸問題を課題として設定し、実務に則した分析、問題解決について取り組む。「プロジェクト研究」の場における学生相互の議論、情報交換等を踏まえ、問題把握、分析、問題解決を進めることになる。修了年次の9月上旬の中間報告会で進捗を確認し、1月上旬に提出されたのち口頭による発表会を経て、主査及び副査2名の教員により評価を受ける。

## ビジネス研究科の1年

各学期ごとに科目登録・成績発表を行います



## カリキュラム (設置科目)

ソリューションレポート プロジェクト研究 II プロジェクト研究 I プロジェクト研究基礎			ソリューションレポート プロジェクト研究			ソリューションレポート プロジェクト研究			ソリューションレポート プロジェクト研究 II プロジェクト研究 I プロジェクト研究基礎		
中小企業・地域経営	イノベーション	マーケティング	専門科目			会計・ファイナンス	ビジネス環境分析	ゼネラルマネジメント			
産業集積と立地戦略 中小企業経営演習 ベンチャーファイナンス 戦略的企業再生 中小企業経営コンサルティング 観光マーケティング 京都の知恵ビジネス 地域ブランド戦略 中小企業・地域経営特殊研究	オープンイノベーション ITビジネス戦略 サプライチェーンマネジメント 技術マーケティング 知財マネジメント 組織イノベーション MOT特殊講義 イノベーション特殊研究	サービスマーケティング マーケティング戦略 広告・コミュニケーション 商品・ブランド開発 マーケティング特殊研究	各専門分野について、より高度で最新の知識を獲得するための応用科目です。			金融工学 リスクマネジメント 会計・監査 投資戦略 税務戦略 M&A戦略 コストマネジメント 会計・ファイナンス特殊研究	マクロ経済分析 内外通貨金融環境 (通貨と金融の国際経済学) 国際関係と経営戦略 ビジネス環境分析 特殊研究	ビジネスコミュニケーション ナレッジマネジメント リーガルマインド グローバル経営人材開発 組織間関係マネジメント ゼネラルマネジメント特殊研究			
事業創造マネジメント 京都の伝統産業と文化ビジネス	プロジェクトマネジメント ビジネスモデル イノベーション	マーケティングリサーチ 消費者問題 消費者行動	各専門分野の共通科目Aで獲得した基礎知識をさらに拡充する発展科目です。共通科目Aで獲得した知識を前提としている点にご留意ください。			コーポレートガバナンス コーポレートファイナンス 管理会計	内外マクロ経済環境 (グローバル時代をどう読むか) ミクロ経済分析 企業の社会的・国際的役割	リーダーシップ グローバル企業経営			
中小企業経営 ベンチャー企業経営	イノベーション マネジメント	マーケティング	DBSでは、6つの専門分野(中小企業・地域経営、イノベーション、マーケティング、会計・ファイナンス、ビジネス環境分析、ゼネラルマネジメント)を設定しています。共通科目Aは、各専門分野における基礎科目です。MBAとして不可欠な知識を獲得するために、できるだけ履修することが望ましい科目です。			ビジネス会計学 ビジネスファイナンス	ビジネス経済学 ビジネス統計学	人的資源管理 組織マネジメント 経営戦略			

### 履修科目の選択について

入学時に、履修相談を担当する履修指導教員が決められます。履修科目の選択や履修計画については、履修指導教員の指導を必ず受けてください。なお、「プロジェクト研究基礎」の指導教員(ゼミ担当教員)決定後は、指導教員が履修指導教員となります。

### グローバル経営研究専攻科目の履修について

全ての授業を英語で実施するグローバル経営研究専攻(P.25参照)の設置科目も、一定の条件の下で履修が可能です。ビジネス専攻の学生に配慮し、平日夜間に開講される科目もあります。

### プライベートバンカー(PB)資格試験一部免除について

公益社団法人日本証券アナリスト協会実施のプライマリー・プライベートバンカー(PB)資格試験において、2015年度よりビジネス研究科設置科目のうちPB資格試験に対応する科目の単位を取得した方に資格試験の一部免除をすることになりました。対応科目は以下の通りです。詳細はビジネス研究科事務室までお問い合わせください。

【プライマリーPB資格試験 一部免除対応科目】

- ①ビジネスファイナンス(共通科目A)    ②ビジネス会計学(共通科目A)ないし中小企業経営(共通科目A)  
③コーポレートファイナンス(共通科目B)    ④投資戦略(専門科目)

## 主要科目の概要 (2021年度開講科目)

専任教員が担当する主な授業科目について、講義の目的や講義内容、授業の進め方など、科目の概要を紹介しています。下記科目をはじめ、2021年度開講科目の詳細は、同志社大学ホームページからシラバスをご覧ください。

<https://syllabus.doshisha.ac.jp/>

### 人的資源管理

本講義は、人がいきいきと働き組織成果に貢献してもらうために何が出来るかをテーマとしている。そこで、まず個人と集団の行動についての基礎的理論を学び、その応用として人的資源の活用のために策定される人事戦略および諸施策のねらいについて学ぶ。さらに、ケース分析とディスカッションを通して人的資源管理における様々な課題を多面的に理解し解決できる実践的な力を養成する。



### 管理会計

管理会計の伝統的な知識を習得した後、多くの企業で実践されている管理会計に潜む問題点を把握する。その後、直面している問題を解決するための手法や理論を学ぶ。習得した諸手法に関してはその理解だけでなく、実際にこれらを活用するアクションラーニングを通じて、実践上のノウハウも合わせてマスターする。

本コースの受講者は下記の目標に到達することができる。

- 1 管理会計の企業経営における役割について正しい理解が得られる。
- 2 管理会計の伝統的な知識 (conventional wisdom) を獲得するとともに、これらの知識のうち何が現時点でも有用で、どこが陳腐化しているのかを確認できる。
- 3 日本企業が直面している諸問題を正しく認識し、管理会計の知識を活用して問題の解決方法を提示できるようになる。
- 4 管理会計、原価計算、コストマネジメントの関係がわかる。
- 5 管理会計と他の経営学との関係がわかる。

### オープンイノベーション

本講義は、日本企業凋落の原因のひとつと指摘されている、技術の自前主義と組織とマネジメントの閉鎖性を打ち破る企業経営の概念であるオープンイノベーションを広い視点から議論する内容の講義である。特に、最新の研究結果を踏まえて、オープンイノベーションを企業組織内にいかに定着させるための方法論にまで踏み込んだユニークな内容の講義である。

### 産業集積と立地戦略

産業集積は、生産の基盤や新事業の基盤として企業の立地環境を形成する。本科目では、オープンイノベーションへの活用を含め産業集積を踏まえた企業の立地および新事業の創出、並びに、地域産業活性化の方策を検討する。このため、シリコンバレーやわが国で産業クラスター活動の代表例とみなされる首都圏西部のTAMA産業活性化協会の活動などを事例として取り上げる。

### ビジネス経済学

経済学は経済社会において人々が行う様々な行動(取引)を対象とする学問です。私達がどのような経済の枠組みの中で行動しているか、そしてそうした行動をどのように説明できるかを考えることで、現実の経済の姿を理解しようとするものです。本科目はMBAとしての様々な専門知識を修得する上で欠かせない経済学の考え方を基礎から学ぶことを目的としています。

### リーダーシップ

This course is based on strong background training in leadership skills and the development of various roles to be effective leaders in continuously changing organizations. The aim is to learn that managers must become leaders and take the responsibility for creating a vision for the future, design the organizational environment that determines the culture, inspire and motivate individuals and teams, and create change in order to improve organizational effectiveness.

### コーポレートファイナンス

企業経営上「財務(Finance)」は極めて重要な意味を持つ。CEOとCFOはクルマの両輪であり、事業投資の判断、資金調達手段の選択、配当政策の決定などを行う際に適正な判断が要求される。また近年の金融技術の発達、多様な金融取引の形を生み出し、資金の運用・調達の姿は大きく変容させた。本講義は体系的なファイナンス理論の理解と応用力の深化を図り、企業会計の観点から事業経営の根幹を洞察し、企業価値をマネジメントする能力の構築を目指す。

### 京都の伝統産業と文化ビジネス

本講座では、京都の伝統産業と文化ビジネスの現状分析を行い、その将来の方向性について議論、考察する。特に旧来の伝統産業からいかにして新たな文化ビジネスが生み出せるかを考える。実際に伝統産業の革新に取り組む経営者や職人の話を聞く機会を設けるほか、受講生が中心となり、伝統産業を現代に即した文化ビジネスへと転換するために必要となる要素を提言の形にまとめる。

### マーケティング

本講義では、企業のマーケティング活動に関連する諸概念の理解を目指す。企業は常に消費者の需要を満足させなければならない。この目的を達成するために、どのように工夫し、展開していくのか、それを考えるのがマーケティングの主題である。基礎概念を学び、現実の課題解決に沿ったケーススタディを行うことで実践力を養成する。

### ビジネスファイナンス

本科目は「コーポレートファイナンス」の基礎科目と位置づけ、その理論と実務の概要について学ぶ。講義では、まず財務会計や財務分析の基礎事項を学ぶ。続いて実務でも広く用いられる企業価値評価方法である、DCF法をマスターする。受講者には最終アウトプットとして、自身が勤める会社を分析した「証券アナリストレポート」を作成いただくこととする。

### ミクロ経済分析

講義では需要と供給、市場均衡など、ミクロ経済学の基礎知識を習得する。その後、リスクの経済学(不確実性下の意思決定、リスクプレミアム、モラルハザードなど)、情報の経済学(情報の価値、情報の非対称性など)、経済主体間のインタラクションを分析するゲーム論など、ビジネス環境を分析する際に有効なツールを学ぶ。「経済・市場のメカニズム」を理解することによって、経営上の正しい判断を下すことができるようになる。

### イノベーション特殊研究

#### —先端技術産業のイノベーションマネジメント—

今後、成長が期待される5G、IOT関連の先端技術産業分野に属する企業の市場でのポジショニング、成長性、並びに保有コア技術の分析手法を学ぶ。

同時に中長期の企業価値の更なる成長を追求するための経営戦略構築におけるイノベーションの活用を通じたオーガニック成長の極大化、あるいは外部資源の取入れによる(オープンイノベーション)潜在成長の探索方法を習得する。





## 専任教員・客員教員および担当科目（2021年度開講科目）

教員による2022年度担当科目は一部変更があります。  
 決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。  
 教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載してあります。併せてご覧ください。

URL : <https://bs.doshisha.ac.jp/>

### 〈ビジネス専攻〉 (50音順)



教授

井上 福子 (いのうえ ふくこ)

神戸大学博士(経営学)、インディアナ大学MBA(アントレプレナーシップ専攻)、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンスMSc(比較労使関係および人事管理)  
 日本企業に勤務の後、留学を経て、複数の国際機関および大手外資系企業に勤務。外資系企業では、部長職、人事本部長職等、要職を歴任。国際原子力機関(ウィーン本部)の人材計画課長、上級人事担当官を経て現職。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『人的資源管理』『組織マネジメント』『ゼネラルマネジメント特殊研究(組織変革)』『プロジェクト研究基礎・I・II』

**専門分野** 人的資源管理、組織開発



教授

加登 豊 (かど ゆたか)

神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了(経営学修士)、博士(経営学)  
 神戸大学大学院経営学研究科教授(元研究科長)を経て現職。現在小野薬品株式会社取締役(独立役員)、神戸すまいまちづくり公社評議員、石原ケミカル株式会社独立委員を兼務。神戸大学名誉教授。  
 これまでにノースカロライナ大学、コロラド大学、サンディエゴ州立大学、ゲント大学、ロンドンスクールオブエコノミクス、オックスフォード大学、マンチェスター大学、シェフィールド大学にて客員研究員として研究に従事。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『経営戦略』『管理会計』『コストマネジメント』『フィールドスタディ』『ゼネラルマネジメント特殊研究(組織の維持・発展)』『プロジェクト研究基礎・I・II』

**専門分野** 管理会計、戦略的コスト・マネジメント、マネジメント・コントロール、事業創生戦略



教授

北 寿郎 (きた としろう)

名古屋大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了、工学博士  
 NTT研究所において、磁気ディスクにおける先駆的な研究を行う。NTT研究開発本部人事育成担当部長、広報渉外部門長、知能情報研究部長、社会情報研究部長を歴任後、e-Japanのインフラとなる住民基本台帳ネットワークシステム構築の指揮を執る。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『イノベーションマネジメント』『製品・サービス開発イノベーション』『ビジネスモデルイノベーション』『オープンイノベーション』『プロジェクト研究基礎・I・II』  
 <グローバル経営研究専攻> 『Strategic Management for Innovation and Change』

**専門分野** イノベーションマネジメント



教授

児玉 俊洋 (こだま としひろ)

東京大学経済学部卒業  
 通商産業省・経済産業省で、中小企業政策、地域産業政策を中心に実務と研究の両面に従事。特に、「産業クラスター計画」の原型とされる首都圏西部地域における協議会組織の設立、経済企画庁において「景気ウォッチャー調査」の創設に従事。研究職としては、埼玉大学大学院政策科学研究科助教授、独立行政法人経済産業研究所上席研究員、京都大学経済研究所教授を歴任。日本政策金融公庫特別参与を経て2012年度より現職。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『ベンチャー企業経営』『事業創造マネジメント』『産業集積と立地戦略』『中小企業経営演習』『プロジェクト研究基礎・I・II』

**専門分野** 産業クラスター、中小企業



教授

浜 矩子 (はま のりこ)

一橋大学経済学部卒業  
 前職は三菱総合研究所主席研究員。1990年から98年まで、同社初代英国駐在員事務所長としてロンドン勤務。帰国後、経済動向に関するコメンテーターとして内外メディアに執筆や出演。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『ビジネス経済学』『内外マクロ経済環境(グローバル時代をどう読むか)』『内外通貨金融環境(通貨と金融の国際経済学)』『プロジェクト研究基礎・I・II』  
 <グローバル経営研究専攻> 『Making Sense of the Global Economy』

**専門分野** 国際経済学、国際金融論、欧州経済論



教授

Philippe BYOSIERE (フィリップ ビオジェール)

ミシガン大学アンアバー校MA, PhD  
 応用組織心理学者(applied organizational psychologist)として、主に、異なる部署間や国際的に比較してみた場合の、組織における個人の役割に関する教授、研究、およびコンサルティングを行う。ミシガン大学での様々な研究職および教職、アンアバーの交通研究機関での自動車分析部門の客員研究教授職を経て現職。その研究は、the Handbook of Organizational and Industrial Psychology、the Handbook of Organizational Learning and Knowledgeをはじめ、International Business Research, Project Management Journal, Journal of Knowledge Management, Women in Management Reviewなどのジャーナルに掲載されている。  
 米国ではバドュー大学、ラトガーズ大学、ハワイ大学に在籍。日本では先端科学技術大学院大学(JAIST)および一橋大学で、ヨーロッパではルーベンやマドリッド等で研究職に従事する。米国、ヨーロッパ、日本の民間団体、公的機関において、多数研究教育活動に携わる。在京都ベルギー王国名誉領事。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『リーダーシップ』『ナレッジマネジメント』『ゼネラルマネジメント特殊研究(組織行動論)』『プロジェクト研究基礎・I・II』

**専門分野** 知識創造とイノベーション、リーダーシップと組織行動、ジョブストレス



教授

藤原 浩一 (ふじわら こういち)

慶應義塾大学大学院商学研究科商学専攻博士課程修了  
 慶應義塾大学大学院修了後、弘前大学人文学部経済学科、福島大学経済学部助教授を経て現職。  
 上場企業および地元団体と、各種MBA、MOTプログラムの開発、実行に携わる。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『ビジネス統計学』『コーポレートファイナンス』『金融工学』『戦略的企業再生』『プロジェクト研究基礎・I・II』

**専門分野** 経済学、技術経営、金融工学、統計学



教授

村山 裕三 (むらやま ゆうぞう)

米国ワシントン大学修了、PhD(経済学)  
 1982年にアメリカ経済史で博士号を取得後、野村総合研究所に勤務、アメリカ及びヨーロッパのハイテク企業の調査研究に携わる。その後、関西外国語大学助教授、大阪外国語大学教授を経て現職。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『企業の社会的・国際的役割』『京都の伝統産業と文化ビジネス』『国際関係と経営戦略』『プロジェクト研究基礎・I・II』

**専門分野** 企業の社会的責任、経済安全保障、技術政策、文化ビジネス

〈ビジネス専攻〉  
(50音順)



教授 ビジネス研究科長  
山下 貴子 (やました たかこ)

神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程企業システム専攻修了、博士(商学)  
東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士後期課程中退、博士(学術)  
流通科学大学商学部、同大学大学院流通科学研究科博士後期課程教授、ヴァージニア大学ダーテン・ビジネススクール客員研究員等を経て現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『マーケティング』『マーケティングリサーチ』『消費者行動』『商品・ブランド開発』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 マーケティング、消費者行動



准教授  
野瀬 義明 (のせ よしあき)

神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了、修士(理学)  
筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士後期課程修了、博士(経営学)  
1997年に大和総研へ入社。主に上場企業への経営コンサルティングと、M&A案件でのビジネスデューデリジェンスに従事。2008年に大和SMBCキャピタル(現大和企業投資)に転籍。パイアウトファンドの投資担当者として様々な買収案件に参画。2012年からは桃山学院大学経済学部へ転じファイナンスを担当。2016年より現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『ビジネスファイナンス』『ベンチャーファイナンス』『投資戦略』『ビジネス会計学』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 コーポレートファイナンスに関する実証分析



特別客員教授  
成生 達彦 (なりう たつひこ)

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程(学修)、博士(経済学)  
南山大学経営学部教授、京都大学大学院経済学研究科教授、同経営管理研究部教授を経て現職。日本経済研究センター研究奨励金審査委員。京都大学名誉教授。ノースカロライナ州立大学に留学(PhD取得)。

担当科目 <ビジネス専攻> 『ミクロ経済分析』『組織間関係マネジメント』『ビジネス環境分析特殊研究(流通論)』『ゼネラルマネジメント特殊研究(産業組織論)』『プロジェクト研究基礎』

専門分野 ミクロ経済学、流通経済学、産業組織論



客員教授  
鈴木 吉宣 (すずき よしのり)

慶応義塾大学商学部卒業  
元オムロン株式会社代表取締役副社長兼CFO。立石電機株式会社(現オムロン株式会社)に入社後、経理・財務、米国子会社コントローラ、グループ戦略室経営戦略部長、経営企画室長、オムロンオートモーティブエレクトロニクス株式会社代表取締役社長、(兼)オムロン飯田株式会社代表取締役社長を歴任。経営工房YS研究所代表。センクスシア株式会社、日本ビラー工業株式会社社外取締役。

担当科目 <ビジネス専攻> 『グローバル企業経営』

専門分野 財務・経理、企業戦略



客員教授  
森下 俊三 (もりした しゅんぞう)

名古屋大学大学院工学研究科修士課程(工学修士)  
日本電信電話株式会社取締役設備企画部長、東日本電信電話株式会社代表取締役副社長、西日本電信電話株式会社代表取締役社長、関西経済同友会代表幹事、関西経済連合会副会長などを歴任し、現在は阪神高速道路株式会社シニアアドバイザー。一般財団法人関西情報センター会長、日本放送協会(NHK)経営委員会委員長、大阪市高速電気軌道株式会社(大阪メトロ)経営委員なども務める。

〈グローバル経営研究専攻〉  
(50音順)



教授  
有井 健 (ありい けん)

ブリティッシュ・コロンビア大学MSc(植物学)、マギル大学PhD(生物学)  
モンリオール大学(複雑系研究室)、トロント大学(森林動態研究室)にて研究員、立命館アジア太平洋大学教授を経て現職。

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Green Management in Action』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 Ecology, Environmental Modeling, Sustainability Science



教授  
飯塚 まり (いづか まり) ※2021年度国内研究

同志社大学(心理学)、スタンフォード大学MBA、MA(開発経済)、京都大学PhD  
外資系企業から、世界銀行(ワシントンDC)、アジア経営大学院、立命館アジア太平洋大学を経て現職。INSEAD(仏)やチュービンゲン大学(独)他、客員研究員。アジア各国での経営者トップセミナーを始めとして、多国籍企業や50か国以上出身のMBAを対象とした豊富な教育経験を有する。グーグル発のマインドフルネスリーダーシップの公式トレーナー。日本能率協会Kaika Awards 審査委員。日本グローバルコンパクト・アカデミックネットワーク(J-GCAN)会長。同志社大学Well-being研究センター長。著書に『進化するマインドフルネス-ウェルビーイングへと続く道-』(創元社)。

担当科目 <ビジネス専攻> 『グローバル経営人材開発』  
<グローバル経営研究専攻> 『Responsible Leadership in the Global Context』『People and Organizations』『The Business of Japanese Pop Culture』『Understanding Japanese Corporations』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 経営戦略、組織・人材開発、ビジネス倫理



教授  
殷 勇 (イン ユウ)

東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程後期修了、経営学博士  
山形大学教授を経て現職。現在は中国西北工業大学客員教授。Asian Journal of Management Science and ApplicationsのEditor in Chiefを担当し、The Asian Association of Management Science and Applicationsの会長(2013-2015)も務める。

担当科目 <ビジネス専攻> 『サプライチェーンマネジメント』  
<グローバル経営研究専攻> 『Operations Management』『Foundations for Sustainable Management』『Operations Management in Asia』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 持続可能な生産システム、ものづくり経営学、経営定量分析

〈グローバル経営研究専攻〉  
 (50音順)



教授  
 河南 順一 (かわみなみ じゅんいち)

同志社大学商学部卒業、アリゾナ州立大学大学院W.P. Carey School of Business MBA  
 IT・外食業界等でIT・マーケティング・コミュニケーションを融合した戦略の策定・展開を担い、CEOとともに企業価値創造の実行に携わった。日本マクドナルド株式会社、アップルジャパン株式会社、株式会社すかいらーく、サンマイクロシステムズ株式会社、モービル石油株式会社等に勤務。マーケティングおよびコミュニケーション部門のディレクターとしてマーケティング・ブランドマネジメント・広告宣伝・広報・危機管理・イベント・エバンジェリスト施策等を統率、石油会社の営業および情報システムにも従事した。厳しい経営環境下での戦略的な企業再生にも携わり、アップルでは、“Think different”を掲げたブランド戦略の展開、マクドナルドでCEOコミュニケーションの一新を担うなど、ブランド再生や企業イメージの刷新を牽引した。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『広告・コミュニケーション』  
 <グローバル経営研究専攻> 『Strategic Management』『Creativity and Communication』『Communication and Information Technology』『Professional Development』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** コミュニケーション、インフォメーション・テクノロジー、マーケティング・コミュニケーション



教授  
 須貝 フィリップ (スガイ フィリップ)

早稲田大学PhD、ニューヨーク大学スタンビジネススクールMBA (Marketing, Operations Management)  
 American Express, Muze Inc, Lightningcast Incのマーケティング・エグゼクティブを歴任し、現在は国内外の企業のマーケティング・アドバイザー、およびマーケティング戦略コンサルタントを務める。『Building Value through Marketing (Routledge, 2020)』と『The Six Immutable Laws of Mobile Business』(John Wiley & Sons, 2012)の2冊を著し、またIvey Business School Publishingより、HOSOO(株式会社細尾)、ネスレ日本、AGL、初音ミク、Walt Disney Internet Groupに関するケーススタディを発表。国際大学国際経営学研究科教授を経て現職。

**担当科目** <グローバル経営研究専攻> 『Marketing』『Sustainable and Responsible Marketing』『e-Marketing』『Marketing Research』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** Value, Innovation, Responsible Marketing



准教授  
 Bishnu Kumar ADHIKARY (ビシュヌ クマル アドカリー)

MCom (Accounting), Dhaka University; MBA (Marketing), Calcutta University; MBA (Finance), Ritsumeikan Asia Pacific University; PhD (Asia Pacific Studies, FDI), Ritsumeikan Asia Pacific University  
 As an academic, trainer and researcher, Dr. Adhikary has long years' experience in dealing with various finance and economic issues of the Asian economies, in particular. Dr. Adhikary is presently conducting a research on the governance of family firms in Japan. His research interest includes earnings management, integrated reporting, private equity, crowdfunding, venture capital, SME finance, and FDI.

**担当科目** <グローバル経営研究専攻> 『Accounting』『Environmental Accounting』『Business Analysis and Valuation』『Business Research Methods』『Statistics』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** Corporate Governance, Private Equity, Crowdfunding, FDI



准教授  
 奥平 寛子 (おくだいら ひろこ)

大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、経済学博士  
 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授、University College London 研究員(日本学術振興会海外特別研究員として派遣)を経て現職。膨大な政府統計を用いたデータ分析や行動経済学に知見を活かした実験など、幅広いアプローチから実証分析を行う。最近の主な論文として、“Regulating the timing of job search: evidence from the labor market for new college graduates”, Labor Economics, vol.67, No.101941, 2020. “Competitiveness and individual characteristics: a double-blind placebo-controlled study using oxytocin”, Scientific Reports, vol.10(1), No.11526, 2020

**担当科目** <グローバル経営研究専攻> 『Business Economics』『Sustainable Human Resource Management』『Creativity in Organizations』『Human Resource Management in Asia』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** 労働経済学、応用ミクロ計量経済学、人事の経済学



教授  
 竹田 宗継 (たけだ むねつぐ)

同志社大学商学部卒業、サンダーバード国際経営大学院MBA  
 1980年より2010年までパナソニック(株)勤務。パナソニック・アメリカ社デバイス営業担当(米国駐在8年)、パナソニック・ヨーロッパ社コーポレート・コミュニケーション担当(イギリス・ドイツ駐在3年)、本社グローバル企業宣伝室室長などを経て2011年より現職。

**担当科目** <グローバル経営研究専攻> 『Japanese Business Practices』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** 国際経営、異文化ビジネスコミュニケーション



准教授  
 Isabell HANDLER (イザベル ハンドラ)

MBA, Vienna University of Economics and Business; MCom, Vienna University of Economics and Business; PhD in Media and Governance, Keio University  
 Prior to joining Doshisha in fall 2018, Dr. Handler taught at a private university in Taiwan for six years. Before joining the academic world she was employed at Austrian Federal Railways and served as a project manager for largest international projects in the company and as coordinator for a group-wide infrastructure program. Her research focus is on sustainable tourism management and travel behavior of tourists in Asian markets. She is further interested in tourism policy management, destination marketing and cultural tourism in the Asian region and is especially keen to explore these topics using content analysis and qualitative research methods.

**担当科目** <グローバル経営研究専攻> 『Cultural and Creative Industries』『Cultural Tourism』『Business Research Methods』『Writing Skills for Effective Communication』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** Sustainable Tourism, Cultural Tourism, Travel Behavior, Tourism Policy Management



准教授  
 刘 明 (リュウ ミン)

MS (Financial Mathematics), Florida State University; PhD (Finance), State University of New York-Binghamton  
 Dr. Liu joined Doshisha University Business School as an associate professor in 2018. Prior to joining Doshisha University, he was a professor of finance at International University of Japan. He is a CFA charter holder. Before entering the PhD program, he worked in Misys International Banking System Inc. as a software programmer.

**担当科目** <グローバル経営研究専攻> 『Finance』『Economics for Sustainable Development』『Investment in Asia』『Strategic Cost Management』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

**専門分野** Investment, Mutual Funds, Market Efficiency, Behavioral Finance

〈寄付教育研究プロジェクト「同志社大学産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト」〉



教授  
 沖 勝登志 (おき かつとし)

ニューヨーク大学MBA  
 日本生命、SCREENホールディングスにおいて40年近い実務経験を有する。  
 欧米における10年を超える勤務経験に加え、SCREENホールディングスにおいては、経営戦略担当、並びにサステナブル経営担当の役員を務める。

**担当科目** <ビジネス専攻> 『イノベーション特殊研究(先端技術産業のイノベーションマネジメント)』『イノベーション特殊研究(先端技術産業のオープンイノベーション)』  
 <グローバル経営研究専攻> 『Innovation Management in Technology-based Industries』『Open Innovation in Technology-based Industries』

**専門分野** 経営戦略

## 兼任教員・客員教員・嘱託教員および担当科目（2021年度開講科目）

※兼任：同志社大学に所属／嘱託：他大学や学外の機関・企業に所属、その他

教員による2022年度担当科目は一部変更があります。  
決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。  
教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載しております。併せてご覧ください。  
兼任教員・嘱託教員による2022年度担当科目は一部変更があります。  
決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。

URL : <https://bs.doshisha.ac.jp/>

### 〈ビジネス専攻〉

#### 嘱託教員

馬場 新一  
『消費者問題』  
神戸市 会計年度任用職員

東谷 典尚  
『戦略的企業再生』  
株式会社ポプラ社 教育コンテンツ事業局  
エグゼクティブ・アドバイザー

飯田 浩司  
『リーガルマインド』  
明治学院大学 法と経営学研究科教授

金武 創  
『観光マーケティング』  
京都橋大学 経済学部教授

勝連 城二  
『プロジェクトマネジメント』  
PMイノベーションオフィス51  
プロジェクトマネジメント組織開発  
人材育成 コンサルティング 代表

松本 茂  
『M&A戦略』  
城西国際大学 大学院  
国際アドミニストレーション研究科教授

三谷 康生  
『会計・ファイナンス特殊研究(実践M&A)』  
ワイエムエー株式会社 代表取締役社長

三浦 慎一郎  
『ビジネスコミュニケーション』  
コクヨ株式会社 財務経理本部IRユニット ユニット長

宮井 秀明  
『税務戦略』  
BTJ税理士法人(代表社員) 公認会計士・税理士

森脇 肇  
『リーガルマインド』  
弁護士法人興和法律事務所 弁護士

宗平 順己  
『ITビジネス戦略』  
『イノベーション特殊研究(サービスデザイン論)』  
武庫川女子大学 経営学部教授  
Kyotoビジネスデザインラボ 代表

内藤 浩樹  
『知財マネジメント』  
大阪工業大学 大学院知的財産研究科教授

中森 孝文  
『京都の知恵ビジネス』  
龍谷大学 政策学部教授

成岡 秀夫  
『中小企業経営コンサルティング』  
『中小企業経営演習』  
株式会社成岡マネジメントオフィス 代表取締役

西岡 健一  
『サービスマーケティング』  
関西大学 商学部教授

大塚 雅生  
『技術マーケティング』  
大研医器株式会社 技術本部執行役員担当部長

指田 朝久  
『リスクマネジメント』  
東京海上日動リスクコンサルティング株式会社  
ソリューション創造本部 主幹研究員

新村 猛  
『中小企業経営』  
がんこフードサービス株式会社 取締役副社長

殿村 美樹  
『地域ブランド戦略』  
株式会社TMオフィス 代表取締役兼PRプロデューサー

筒井 肇  
『マクロ経済分析』  
筒井金融経済研究所 代表

安井 一浩  
『会計・監査』  
神戸学院大学 経営学部教授

安酸 建二  
『会計・ファイナンス特殊研究(原価計算)』  
近畿大学 経営学部教授

吉川 泰宇  
『会計・ファイナンス特殊研究  
(独占禁止法(経済学的な観点から))』  
公正取引委員会事務局審査局  
上席審査専門官(デジタルプラットフォーム担当)

吉村 典久  
『コーポレートガバナンス』  
大阪市立大学大学院 経営学研究科教授

### 〈グローバル経営研究専攻〉

#### 兼任教員

高橋 宏司  
『Business Law』  
同志社大学法科大学院 司法研究科教授

#### 客員教員

Joseph Haldane  
『Global Intensive Subject 2』  
The International Academic Forum (IAFOR) 会長

Ross Rowbury  
『Marketing in Asia』  
3i Consulting株式会社 PRコンサルタント(Principal)

#### 嘱託教員

C. Jeffrey Char  
『Global Intensive Subject 1』  
ジェイ・シード株式会社 代表取締役

Francesco Formiconi  
『The Business of Fashion Industry』  
ディーゼルジャパン株式会社  
Senior Finance Director

佐土井 有里  
『Knowledge and Innovation  
Management』  
名城大学 経済学部教授

杉山 浩一  
『Global Intensive Subject 3』  
有限会社杉山マネージメント開発  
代表取締役

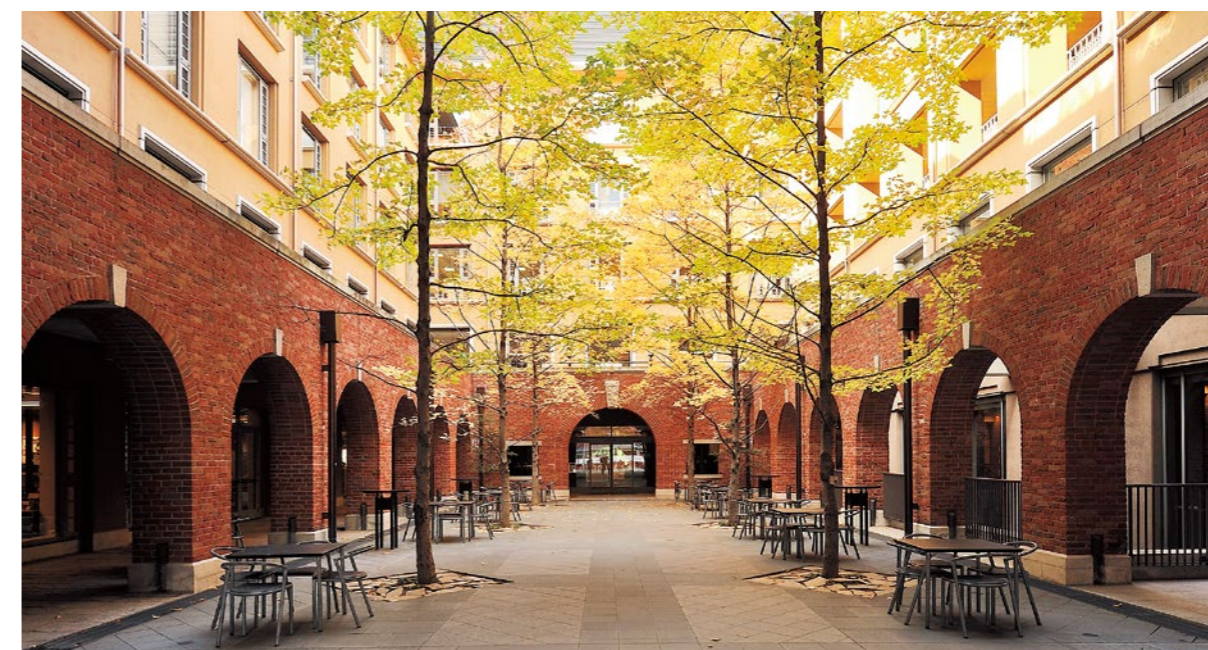
### 『MOT特殊講義』(京田辺校地開講)担当者

廣垣 俊樹  
『制御システム』  
同志社大学 理工学研究科教授

大谷 直毅  
『ナノテクノロジー』  
同志社大学 理工学研究科教授

北岸 宏亮  
『生命科学』  
同志社大学 理工学部教授

柴田 一成  
『地球環境科学』  
同志社大学 理工学部客員教員



## 公開講座・特別講座

一般の方にもご参加いただける公開講座や授業公開のほか、ビジネス研究科に属していることにより特別に参加できるセミナーや特別講座などを幅広く開催しています。ビジネス研究科所属の教授陣が、各分野のホットな話題について、多彩な切り口と的確な分析で今後の展望をご提示します。時に、本研究科での授業を疑似体験していただけます。また、多方面の企業との交流セミナーや他大学講師の特別講義など、幅広い知識修得や価値創造を体感することができる画期的な企画を開催しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して、対面授業とネット配信授業の2形態で下記のような講座を開催しました。今後のイベントについては決定次第、ビジネス研究科ホームページに掲載します。



### MBA入門シリーズ講座

- イノベーションマネジメント  
実施日：2020年6月28日(日)
- オープンイノベーション  
実施日：2020年10月11日(日)
- ベンチャー企業経営  
実施日：2020年11月22日(日)
- 経営戦略  
実施日：2020年7月5日(日)
- ビジネスファイナンス  
実施日：2020年10月18日(日)
- マーケティング  
実施日：2020年11月29日(日)
- ベンチャー企業経営  
実施日：2020年7月12日(日)
- 管理会計  
実施日：2020年10月25日(日)
- ビジネス統計学  
実施日：2020年12月6日(日)
- ビジネスファイナンス  
実施日：2020年7月19日(日)
- 人的資源管理  
実施日：2020年11月1日(日)
- 内外マクロ経済環境  
実施日：2020年12月13日(日)
- 人的資源管理  
実施日：2020年7月26日(日)
- 権限移譲と移転価格  
実施日：2020年11月8日(日)
- 京都の伝統産業と文化ビジネス  
実施日：2020年11月15日(日)

### 寄付教育研究プロジェクト

寄付教育研究プロジェクトは、個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。研究センターとともに独創的な研究拠点の形成を目指しています。また、個性豊かな授業科目や公開講座などの寄付講座も開設しています。

#### ■産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト

株式会社SCREENホールディングスの協力を得て、先端技術分野のグローバル事業および経営についての教育・研究を展開するプロジェクトです。国際的に評価されるビジネススクールの新たな産学連携モデルの形成を目指しています。

### MBA公開講座

主催：同志社大学大学院ビジネス研究科  
後援：京都リサーチパーク株式会社

- With コロナ時代のモノづくりのゆくえを探る  
実施日：2020年8月29日(土)



### 起業家育成MBA基礎講座～起業の構想力をみがく～

主催：公益財団法人京都産業21、同志社大学大学院ビジネス研究科  
対象：京都府内の起業・創業から数年以内の企業経営者層、起業希望者(大学生含む)

- 第1回「オリエンテーション」、「起業プロセスの構成要素」  
実施日：2020年10月6日(火)
- 第2回「起業の事業ドメイン」  
実施日：2020年10月13日(火)
- 第3回「起業家のリーダーシップ」  
実施日：2020年10月20日(火)
- 第4回「次のステージに組織を導くリーダーシップ」  
実施日：2020年10月27日(火)
- 第5回「企業価値とは何か？」  
実施日：2020年11月10日(火)
- 第6回「資本政策と投資家との交渉」  
実施日：2020年11月17日(火)
- 第7回「起業戦略レポートの発表とディスカッション」  
実施日：2020年12月1日(火)



### 《実践》次世代女性リーダー育成研修2020 ～京都府女性中核人材育成研修～

主催：輝く女性応援京都会議(事務局：京都府、京都市、京都労働局、京都商工会議所) 実施・運営：京都商工会議所 協力：同志社大学大学院ビジネス研究科

- 第1回「企業経営と女性活躍」  
「経営戦略とダイバーシティ」  
実施日：2020年9月28日(月)
- 第2回「VUCA時代の未来思考法  
～組織でもプライベートでも意思決定の質を上げる～」  
実施日：2020年10月16日(金)
- 第3回「企業活性化とカルチャー変革  
～原点に立ち返り“未来”を描く～」  
実施日：2020年11月20日(金)
- 第4回「チェンジマネジメントのためのリーダーシップ  
～経営組織と人的資源管理～」  
実施日：2020年12月18日(金)
- 第5回「感性価値創造への挑戦」  
実施日：2021年1月13日(水)
- 第6回「ディスラプション(破壊的創造)の時代におけるリーダー像」  
実施日：2021年2月8日(月)
- 成果報告会  
実施日：2021年2月26日(金)

## 同志社MOT(Management of Technology)コース (ダブル・ディグリー)

### 3年間でビジネス修士(専門職)と修士(工学/理学)の2つの学位が取得できます

同志社大学大学院ビジネス研究科と理工学研究科では、技術を経営に生かし企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、高度で実践的な教育研究を行う技術経営コースを設けています。本コースは、両研究科における履修課程をシームレスに結ぶことにより、3年間でダブル・ディグリー取得を可能とするもので、本学におけるMOT教育の水準向上に資するとともに、産業界からのMOT人材育成の要望に応えるものです。

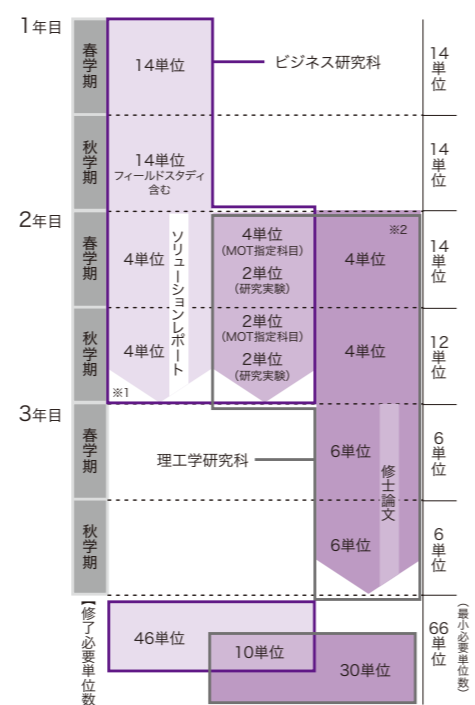
#### コースの概要

ビジネス研究科に入学した年度の7月頃に本コースへの入学試験を行います。入学試験では、面接試験により本コース履修に必要な知識、適性等の判定を行います。

本コースでは、ビジネス研究科2年、理工学研究科1年の計3年間同志社大学大学院で学ぶこととなり、ビジネス研究科1年次生の秋学期から理工学研究科科目の履修が始まります。(右の単位修得例参照)

なお、本コース修了者には、ビジネス研究科を修了した時点でビジネス修士(専門職)の学位が授与され、引き続き理工学研究科に進学し理工学研究科を修了した時点で修士(工学)もしくは修士(理学)の学位が授与されるとともに、本コースの修了証が交付されます。

#### 単位修得例 ビジネス研究科修了後理工学研究科へ進学する場合



※1 ビジネス研究科在籍中にMOT分野の指定科目を修得した場合は、理工学研究科修了必要単位数に6単位を上乗せして算入されます。また、ビジネス研究科2年次に理工学研究科に設置された研究実験I・II(計4単位)を履修しなければなりません。これは、ビジネス研究科、理工学研究科とも修了必要単位数に算入されます。

※2 ビジネス研究科在籍中にも、理工学研究科設置科目を履修することができます。これはビジネス研究科の修了必要単位数には算入されませんが、理工学研究科へ進学した際には既修得単位として理工学研究科修了必要単位数に算入されます。

## グローバル経営研究専攻 (修士課程)

### グローバル経営研究専攻の特色

2014年度、ビジネス研究科では、英語で学位を取得することができるグローバルMBAコースをさらに発展・充実させ、新たに「グローバル経営研究専攻」を設けました。本専攻は、英語での授業や多様な留学生と触れ合うグローバルな環境を提供し、MBA取得に意欲のある日本人学生と、世界各国からの留学生とが共に学び、将来は日本企業等の国際化に貢献することが期待されています。また、社会的使命を持つ国際ビジネスリーダーとして様々な課題に対応できる経営知識修得を目指します。



#### 人材養成目的

ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程は、グローバル化の中で社会的使命を持ち、サステナビリティとグリーンビジネス、文化と創造性ビジネス、アジアビジネスへの理解と研究を通して、国際ビジネスリーダーとして必要な視点や能力を身に付けて、日本と母国の経済発展を支える人物の養成を目的とする。

#### 中心的学問分野

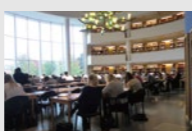
Sustainability and Green Business サステナビリティとグリーンビジネス	Culture and Creativity 文化と創造性ビジネス	Business in Asia アジアビジネス
経済発展と環境問題、環境マネジメントの課題などを包摂し、実際の経営と地球環境の諸問題を探求する。	ポップカルチャー、ファッション、アニメ、伝統文化などの産業を中心に、多様な文化、発展の傾向を比較分析し、社会との関係性を解明する。	日本を含むアジア各国固有の経営システムへの理解、比較研究を軸に、アジアビジネスが世界に果たす役割を制度論的に追及する。

## 国際連携プログラム

ビジネス研究科は、下記のような大学院との間で単位相互交換等の連携を行っています。

詳細はビジネス研究科事務室へお問い合わせください。

#### ヨーテボリ大学大学院 School of Business, Economics and Law, University of Gothenburg



19世紀、スウェーデン第2の都市、ヨーテボリに設立。独立したビジネススクールとして国際的視野を持つ人材育成を目標とする、由緒ある大学院です。

#### チュービンゲン大学 経済社会学研究科 Faculty of Economics and Social Sciences, University of Tübingen



1477年創立。ドイツ政府によりエクセレンス・イニシアティブに採択された、ドイツにおいて最も権威のある大学のひとつです。

#### 中国人民大学商学院 Renmin University of China School of Business



中華人民共和国建国後の1950年に設立された中国最初の大学であり、人文社会学を主とする国家重点大学のひとつ。商学院は、EQUISとAACSBという2つの国際的な認証を受けたビジネススクールです。

#### 国立台湾師範大学管理學院 Taiwan National Normal University, College of Management (Taiwan)



1946年設立。台湾中等教育に携わる優秀な教師陣の育成を主な出発点とする。管理學院は2008年に設立され、台湾で最も新しい国立ビジネススクールです。

#### ガジャ・マダ大学 経済ビジネス学部 Universitas Gadjah Mada, Faculty of Economics and Business (Indonesia)



インドネシア最古かつ最大の国立大学院で、18学部を持つ最高峰の大学。経済ビジネス科は、インドネシアで最高のビジネスプログラムを提供していることで広く知られています。

グローバル経営研究専攻のより詳しい内容に関しては…

URL <https://gmba.doshisha.ac.jp/en/> E-mail [ji-gmba@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-gmba@mail.doshisha.ac.jp)



## 学習環境

### 「学びのオアシス」を目指して

教室やラウンジ、図書室などの学習環境を整備しハード面でも充実したサポート体制で学習を支援しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して、対面講義とオンライン講義、およびこの2つの形式を融合させたハイブリッド方式の3形態で講義を実施しました。教室内では密を回避するため「コロナ定員」を定めるなど、ソーシャルディスタンスを確保し安心して受講できる環境を整えています。



対面式階段教室  
全席に情報コンセントおよび電源が備え付けられています

### 最新の設備をもつ学舎 通学に便利な立地

同志社大学今出川校地の北西に位置する寒梅館の2階・3階に、ビジネス研究科の本校があります。京都駅から地下鉄で10分という好立地にある学舎は、忙しいビジネスパーソンには好適です。

寒梅館2階には教室が、3階にはラウンジ、プロジェクトルーム、図書室、教員研究室、事務室等があります。また、寒梅館は大小様々な会議室やイベントホール、レストランなどの施設も備えています。



ビジネススクール教室棟への  
エントランス



土日も営業している寒梅館レストラン

## 教室

教室は、対面式の階段教室で、学生と教員が、あるいは学生同士がコミュニケーションをはかりやすいように設計されています。すべての教室で無線LANが使用できるほか、プロジェクター等の機器も完備されています。

### 24時間利用できる専用スペース 知的な交流空間

寒梅館3階のビジネス研究科専用スペースには、ラウンジやプロジェクトルーム、図書室などの施設があり、24時間・365日利用可能です。勤務後に立ち寄り学習する学生も見られます。深夜まで学習する学生のためのセキュリティー管理も万全です。ここは、学習を効果的に行うための機能性だけでなく、知的な交流空間としての雰囲気を大切に考えた設計となっています。(随時見学も可能です)



ラウンジ

### もうひとつの議論の場 ラウンジ・プロジェクトルーム

様々なキャリアを持つ学生が、教室を離れて自由に議論ができるもうひとつの交流空間、それがラウンジとプロジェクトルームです。

ラウンジには、数名のグループで議論を行ったり、データベースを利用しながら意見交換ができるようLANを完備した大小多数のテーブルが置かれています。また、個人専用のロッカーも設置されています。

プロジェクトルームでも、LANやプロジェクターを利用して議論やグループワークを行うことができ、ラウンジと同様、日曜や祝日も活発に利用されています。



ラウンジ



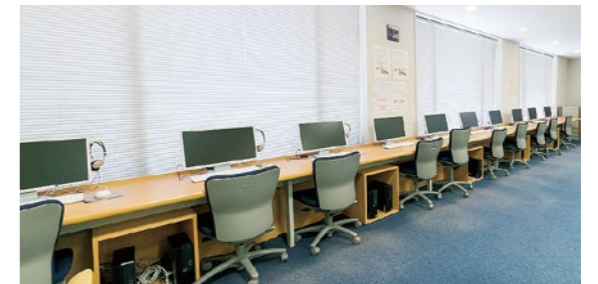
プロジェクトルーム

### 24時間利用可能な専用図書室

経営戦略、マネジメント、マーケティング、会計、ファイナンス、情報、その他関連分野の図書・雑誌等を所蔵しています。ビジネス研究科学生専用のデスクトップパソコンや、有線・無線のLANも完備され、蔵書検索や各種オンラインデータベースの利用も可能です。静かで広々とした閲覧スペースには、58席の閲覧席が設置されています。



図書室



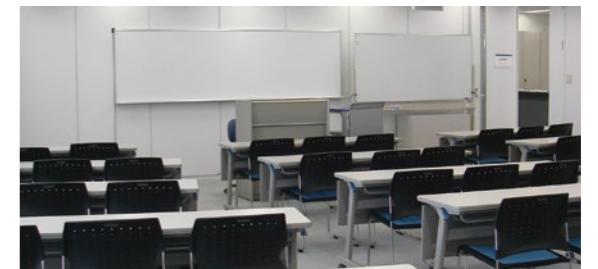
図書室 パソコンコーナー

## 大阪サテライト・キャンパス

働きながらMBA取得を目指す社会人にとって、オフィスからキャンパスまでの距離や移動時間は重要なポイントです。ビジネス研究科では、今出川校地（寒梅館）のほかに、大阪（梅田）のサテライト・キャンパス内に教室を設け、大阪付近に勤務している人にも学びやすい環境を整えています。

大阪サテライト・キャンパスでは、平日の夜間（6限・7限18:25～21:35）に今出川本校と同じ教員による同じ授業を開講しています。

大阪サテライト・キャンパスには、教室のほか、パソコンを設置したラウンジや、教科書や専門書、辞書などを配備した閲覧室があり、学習をサポートしています。



大阪サテライト・キャンパス



大阪サテライト・キャンパス パソコンコーナー

## シニアアシスタント (SrA) 制度

ビジネス研究科修了後も講義に参加し、最新のビジネス教育を受けることができる充実したフォローアップ制度です。社会の様々な分野で活躍している修了生が講義に参加することで議論の高度化、活性化に繋がると共に、修了生と現役生そして教員間の交流による新たなネットワークの構築が期待できます。

## 2022年度募集概要 ビジネス研究科ビジネス専攻（専門職学位課程）

募集人数 30名

### 修業年限

2年を標準としますが、3年修了もできます。

### 入試概要

#### ■ 対象（出願資格）

大学卒業またはそれと同等の学力\*を有し、入学時に原則として3年以上の実務経験を有する方。

\*出願に先立って出願資格の認定が必要です。所定の期日までに申し出て、出願資格の認定審査を受けてください。  
\*TOEICはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。

#### ■ 入学者選抜

第1次選考(書類選考)/第2次選考(口述試験)：第1次選考合格者について行います。

#### ■ 入学試験日程

項目	秋期実施入試	春期実施入試
出願期間	2021年8月10日(火)～8月24日(火)	2022年1月10日(月・祝)～1月17日(月)
第1次選考	選考結果を2021年9月4日(土)付で、本人あてに郵送します。	選考結果を2022年1月29日(土)付で、本人あてに郵送します。
第2次選考	2021年9月11日(土)、12日(日)のうち、大学が指定するいずれか1日。	2022年2月12日(土)、13日(日)のうち、大学が指定するいずれか1日。
合格者発表	2021年9月17日(金)	2022年2月18日(金)

上記入学試験のほか、ビジネス研究科ビジネス専攻では「企業・団体等推薦入試」「本学学部在学生推薦入試」および「外国人留学生入試(留学生別科生推薦を含む)」を設けています。出願資格、日程等が異なりますので、それぞれの入試要項またはホームページでご確認ください(入試要項請求方法は、最終頁参照)。

#### ■ 企業・団体等推薦入試

所属企業等よりビジネス研究科への派遣の推薦を受けた方を対象に「企業・団体等推薦入試」を実施しています。「企業・団体等推薦入試」では、出願の日程や要件が上記の入試と異なりますので、事前にビジネス研究科事務室へお問い合わせのうえ「企業・団体等推薦入試要項」をご請求ください。

#### ■ 本学学部在学生推薦入試

本学の社会学部・法学部・経済学部・商学部・政策学部在学生で学部長推薦を受けた方を対象とし、若干名受入れます。詳しくは、「学部在学生推薦入試要項」をご請求ください。学部長による推薦書については所属の学部事務室へお問い合わせください。

#### ■ 外国人留学生入試（本学留学生別科生推薦を含む）

詳しくは、「同志社大学大学院外国人留学生入試要項」をご請求ください。

#### ■ ビジネス研究科グローバル経営研究専攻（修士課程）（本パンフレットP.25参照）

上記入試制度以外にグローバル経営研究専攻(募集人数45名)の入試を設けています。詳しくはホームページ(<https://gmba.doshisha.ac.jp/en/>)を参照してください。

### 入試説明会

ビジネス研究科では「オープンスクール」(入試説明会、模擬授業、個別相談、施設見学他)、「入試説明会」および「授業公開」などを行っています。日程等はホームページにてご確認ください。また、本研究科の授業は、「MBA公開講座」や「MBA入門シリーズ講座」(本パンフレットP.22-23参照)でも疑似体験していただけます。

### 学費

#### ■ 学生納付金

2022年度入学生の学費は、以下の通りです。(単位:円)

#### 2年修了の場合の標準学費

	第1年次	第2年次
入学金	200,000	
単位授業料	49,000×46 単位	
教育充実費	220,000	220,000
総計(2年間)	2,894,000	

#### 3年修了の場合の標準学費

	第1年次	第2年次	第3年次
入学金	200,000		
単位授業料	49,000×46 単位		
教育充実費	220,000	220,000	110,000
総計(3年間)	3,004,000		

\*第2年次に卒業生団体であるDBSネットワークの会費25,000円(終身会費)を徴収します。詳細につきましては、DBSネットワークに直接お問い合わせください。お問い合わせ先 E-mail: info@dbs-network.com

### 奨学金制度

名称	種類	金額	対象		採用 [出願 (*)]	願書 交付	出願 期間 (**)	採否 決定	備考
			家計基準	成績基準					
同志社大学 短期貸付金	貸与 (無利子)	①一般貸付 30,000円以内 ②特別貸付100,000円以内	やむを得ない事情で、一時的に生活費支弁が困難になった者		①0 ②1		緊急の場合に随時 (事務室開室時間)		一般貸付の返還は3か月以内、特別貸付は10か月以内の月賦返還
日本学生支援機構 大学院 第一種奨学金	貸与 (無利子)	月額 下記金額から選択制 50,000円 88,000円	本人および配偶者の 収入金額の合計額 299万円以下	成績が特に優れ、 学術研究者として 適格と認められる者	第一種 212 [212]				標準修業年限まで貸与 借用総額により異なるが修了後 10～20年以内に返還 新入生には、初回振込時、10万円～ 50万円増額可能な制度あり 第二種奨学金の利率の上限は3% 外国人留学生は出願不可 第一種奨学金には「特に優れた業 績による返還免除」制度あり
日本学生支援機構 大学院 第二種奨学金	貸与 (有利子)	月額 下記金額から選択制 50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	本人および配偶者の 収入金額の合計額 536万円以下	成績が平均水準以上 で、特定の分野に おいて特に優れた 資質能力があると 認められる者	第二種 22 [84]	3月 下旬 ～	4月 月上旬	7月 月上旬	

(\*)採用者数[出願者数]は2020年度実績。博士前期課程・修士課程(専門職学位課程のうちビジネス研究科含む)の全研究科採用者数。採用人数に限度があるため、上記基準内であっても採用されない場合があります。

(\*\*)詳しい出願時期、出願方法に関しては、出願のしおりや本学奨学金ウェブサイト等にて必ずご確認ください。

### 教育訓練給付制度

#### ■ 専門実践教育訓練給付について

ビジネス研究科ビジネス専攻(専門職学位課程)は、2018年度より「専門実践教育訓練給付金制度」の対象講座として指定されています。

この制度は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者(在職者)、または被保険者であった方(離職者)が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一部(最大112万円)をハローワークから支給する制度です。ただし、対象は本専攻の**2年履修生**に限られます。また、雇用保険の状況により支給を受けられない場合もありますので、詳細については本研究科ホームページでご確認の上お近くのハローワークにてお尋ねください。

#### ■ 人材開発支援助成金の利用について（ビジネス専攻に入学する従業員の学費を支援される事業主の方へ）

ビジネス専攻(専門職学位課程)が、2018年度より専門実践教育訓練給付金制度の対象講座となったことに伴い、本専攻に入学する従業員の教育訓練費用を負担する事業主で一定の要件を満たす場合は、人材開発支援助成金を受給することができます。

人材開発支援助成金とは、事業主が、雇用する労働者に対して職務に関連した専門的な知識および技能の習得をさせるための職業訓練などを計画に沿って実施した場合や人材育成制度を導入し労働者に適用した際に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部等を助成する制度です。同制度の詳細については、本研究科ホームページまたは厚生労働省ホームページでご確認ください。

### 科目等履修生

ご自分が現在もっとも必要だと思われる科目を重点的に選択する機会を広く提供するために設けられた単科受講制度です。修得した科目は単位認定され、この単位は将来仮にビジネス研究科へ進学した場合、一定の条件のもとで修了に必要な単位として認定されます。これまでも科目等履修生として授業を履修した後、ビジネス研究科に進学した学生がすでに多く在籍しています。

### 「中小企業・地域経営」履修証明プログラム

企業経営に関する経営戦略、会計、金融、マーケティングなどの幅広い専門知識とその実践力を養成する専門職大学院としての特徴と「中小企業・地域経営」に関する高度な専門性と実践応用力を追求できるというビジネス専攻の特徴を活かし、中小企業や地域の課題を解決するための企画・立案力および実践力を強化できる履修証明プログラムを提供しています。



## 修了生からのメッセージ

長年にわたって医療機器の研究開発に従事しており、DBS入学以前は技術的な視点のみを重視する傾向にありました。経営基幹職への昇進をきっかけにして、ビジネスを構成する他の要素に関しても見識を深める必要があると感じ、すでに入学していた会社の先輩の勧めもあってその門を叩きました。仕事と学業の両方に身を置く3年間は決して簡単ではありませんでしたが、その大変さと引換えに得られたものは大きかったと認識しています。

物事には型と実践があり、それはビジネスにおいても然りと思っています。型によって実践のパフォーマンスが向上し、また実践から理論が構築されて新しい型が形成されるように、この2つは円環を成しているのではないのでしょうか。このような型を修め、自身の実践するビジネスに飛躍を望むのであればDBSは最適な学び舎です。様々な専門領域を持つ先生方から体系的にビジネスの構成要素を学べるだけでなく、業種や年代を越えて志を同じくする学友とのディスカッションは新たな気づきや価値観を与えてくれました。また在学中で最も印象深いのは、集大成であるソリューションレポートを通して、自身の関わるビジネスがいかに多くの人の不断の努力で受け継がれてきたか、意思決定において重要とされる多角的な視点を理解できたことです。知識や考え方に加えて、卒業後も師事したい先生や苦楽を共にした仲間、何ものにも代え難い財産であると強く感じています。

社会人になり主にサービス事業を通じて、現場の経験値を積んできましたが、自身のキャリアが上がるにつれ、組織マネジメントや法務、会計あるいは税務に加え、会社法など、経営に関わる知識を広く理解し、説明責任を果たしていく必要性をひしひしと感じていました。昔からビジネス書などを購入し独自で勉強をしていましたが、その限界もあり何か物足りなさを感じていた時、DBSの説明会があることを知り、そこでMBAがその解決策になると興味を持ち入学いたしました。

DBSには、同志社大学ならではの京都らしい企業をはじめ、様々な業界、年代の方が来ていて、それぞれ業界や立場で問題意識や情報豊富な実務家が多く刺激的です。

また、DBSでは基礎科目を履修した後に、それぞれの専門性を高める科目へと進めていくカリキュラムなので、1年目で学生同士のコミュニケーションを深め、切磋琢磨する関係が実感できます。また修了要件であるソリューションレポートにも心強く取り組める履修環境が築け、ゼミでは、指導教員や先輩などがこれまで積み上げて来られた実績に加え、理論や分析手法などの豊富なサポート力により問題意識を昇華させたソリューションレポートを書き上げていくことは、DBSで学んだことの達成感にも繋がります。

3年間のDBSは私に多くの知識や示唆を与えてくれました。今後も過去の経験にとらわれず実務家としてチャレンジし、より多くの実践と経営判断により、経営力を養っていくことが、DBSでの学びのプロセスの実現であると考えます。経営への実践を目指す方はぜひここで学ぶことをお勧めします。

入学前は、実務経験を積んでいく日々の中で、自分自身の成長を感じつつも、一方で事象を深くとらえ、適切に判断できる何か新たな視点の必要性を感じていました。今考えると、将来を見据えたときに、実務を通して培われた視点だけでは限界を感じていたのかもしれない。そこで、DBSが定期的開催している授業公開に数回参加させていただき、教授陣の熱心な指導と学生の学ぶ姿勢に魅了され、DBSに入学することを決めました。

DBSでは、様々な業界や職種、年代、経歴、国籍を持った方々が授業やアサイメントを通して熱い議論を交わすことが日常となっています。こうした「場」を通して、新たな知識の習得と柔軟な発想を培うことができたと思います。また、仕事が忙しく時間に追われ、心が折れそうなどときには学生同士が支え合い、一体感のある温かい雰囲気の中で学ぶことができたことは非常に良かったです。

それから、ゼミでは指導教員による的確で熱心な指導とゼミ生同士が切磋琢磨しながら学べる環境がありました。そのおかげで、非常に満足できるソリューションレポートを書き上げることができ、指導教員およびゼミ生に感謝の気持ちでいっぱいです。

私はDBSで2年間学んだことにより、最新の経営知識だけでなく、柔軟な考え方や多様な意見を吸収する姿勢を身に付けることができ、実務家として大きく成長することができました。実務で活かせる新たな視点を手に入れたい方は、ぜひDBSで学ぶことをお勧めします。



2021年3月修了  
能登原 大介 さん 修業年限：3年  
(のとはら だいすけ)

株式会社島津製作所 医用機器事業部技術部  
MEシステムユニットアプリケーショングループ長兼  
兼グローバルマーケティング部MEシステムグループマネージャー

医療機器の研究開発に従事しています。当社製品の価値向上を目的として、差別化要因となるアプリケーションの商品企画策定および製品化に注力しています。



2021年3月修了  
山崎 佳代 さん 修業年限：3年  
(やまざき かよ)

日本毛織株式会社執行役員  
人とみらい開発事業本部  
ライフバリューサービスマネージャー

人とみらい開発事業は工場跡地などを生かし、地域と連携した街づくりで「人の未来」を創造する事業部であり、私は介護や保育、スポーツスクール事業などの経営マネジメントおよび事業拡充に向けた取り組みを担っています。



2021年3月修了  
久保田 昌宏 さん 修業年限：2年  
(くぼた まさひろ)

株式会社ホギメディカル  
営業部 ユニットマネージャー

株式会社ホギメディカルにて企画提案営業に従事。医療機関が個々に抱える問題を抽出し、自社の主力製品をもって課題解決へ向けた企画・提案に取り組んでいます。

## DBSネットワーク

2006年3月、ビジネス研究科在学中に培った人々の輪が“DBS ネットワーク”として組織されました。DBSネットワーク代表幹事の野村文宏さんからその活動についてご紹介いただきます。



野村 文宏  
(のむら ふみひろ)  
アルフレッサファーマ株式会社  
常務執行役員

DBSの同窓会組織「DBSネットワーク (DBSN)」は、2006年3月に立ち上がりました。現在、京都本部、東京分会、名古屋分会の3カ所を拠点として活動しています。DBSNには「ビジネス専攻」の修了生・在學生のみならず、世界20数か国から学生が集まる「グローバル経営研究専攻」の修了生・在學生も参加しており、グローバルネットワークが構築されています。

本会の会則には、DBSNは単なる同窓会組織ではなく、DBSの人的ネットワークを活用し、ビジネス、教育、研究等の分野で同志社を助け、社会的貢献を果たすことを目的とするという崇高な理念が掲げられています。この理念に

沿って、DBSNでは構成員である修了生、在學生、教職員の方々との繋がりを深めるための新入生歓迎会、修了記念パーティー等の開催、また公開セミナーやビジネスプランコンテストに対する支援といったDBSでの学びを広く社会に還元する事業を実施しています。

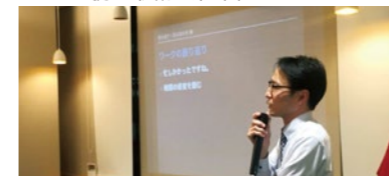
DBSN2021年度のテーマは、「緩やかな繋がりの形成」です。DBSには、幅広い業種、企業等から様々な経歴を持った人々が集い学び、修了後は社会で大いに活躍しています。異なるバックグラウンドを持つ人々との緩やかな繋がりの中から、思いがけない知的な刺激を受け、創造的な気づきを得ることがあります。不確実性が高まり、常に未知の現象に晒され続ける予測不可能な時代、それに適応するように新しいメディアが次々と開発され、知の共有と創造もどんどん加速しています。コミュニケーションの形も多様化し、コミュニティのあり方もよりフラットでフレキシブルに変容しつつあります。変化が加速する時代に適応していくには、多くの人と緩やかに繋がっていることが大切と言われています。

DBSNは、新しいメディアも活用しながら、さらに活性化し、フラットでオープンなコミュニケーションができる「場」を提供していきます。皆様と「緩やかな繋がり」による豊かな知の共有が実現できることを楽しみにしています。

## DBSN年度活動紹介(抜粋)



DBSN連携 連続講座第2回



DBSN連携 連続講座第4回



寒梅館カップ



DBS5研究会合同セミナー

### DBSN連携 連続講座 全4回 ※2019年度実績

- 日時：2019年10月24日(木)  
会場：京都経済センター オープンインノベーションカフェ  
講演：「ブレインストーミング・トレーニングによるアイデアの育て方」  
DBS12期生 米谷 匡弘氏((株)大日本科研)
- 日時：2019年11月13日(水)  
会場：同上  
講演：「成功のための簡単思考術～会社と個人の成功を両立させるためには～」  
DBS6期生 山手 和幸氏 (日本新薬(株))
- 日時：2019年11月21日(木)  
会場：同上  
講演：「常識を疑え～ちょっとずらしのビジネス～」  
DBS12期生 山田 康一氏((株)山田製油)
- 日時：2019年12月4日(水)  
会場：同上  
講演：「私」の魅力高める『自分ブランド』の打ち出し方」  
DBS2期生 辻 光一郎氏((株)松栄堂)

### イベント

- 日時：2019年7月7日(日)  
会場：高槻カントリー倶楽部  
第3回寒梅館カップ(同志社ロースクール同窓会「寒梅会」との共同開催)
- 日時：2019年8月2日(金)  
会場：(株)堀場製作所 BIWAKO E-HARBOR  
会社見学会

## サポート

### 入学前から修了まで、多様なニーズに対応する充実したサポート体制

ビジネス研究科には、様々な職務経験をもつ社会人から、大学生まで、幅広い年齢層の多様な人々が入学し、個々人の学ぶ目的やキャリア目標なども多様です。このような多様性に富むビジネススクールという特徴を踏まえて、入学前から修了まで、多様なニーズに対応する充実したサポート体制を整えています。

#### 在学中の学習指導・支援

入学後、修了までは、一貫して専任教員が様々な指導や相談に当たります。各人のキャリアデザインに対応する履修計画の策定や専門分野に関する指導ばかりではなく、研究科での生活全般にわたる相談・アドバイスを行います。

また、在学中に英語能力を向上させるため「課外英語学習プログラム」を提供しています。ビジネス英語の能力向上のためのオンライン学習を、定期的なスクーリングによってサポートします。

#### 課外英語学習プログラム

#### オンライン英語自習プログラムと対面授業を 組み合わせた英語力養成プログラムを提供

皆さんはDBSで国際ビジネスの高度専門知識を修得していきますが、その知識と技術を国際ビジネスの場で展開するときには英語が必須・不可欠になるでしょう。しかし、高度な英語力というより前に考えるべきことがあります。コミュニケーションは一人では成り立ちません。常に他者、相手を意識して、理解し合うことが重要です。このプログラムe-learningという「自習」プログラムに「対面」授業が組み込まれている意味もそこにあります。さらに、ただ「英語で話せばいい」というだけではありません。前述のように他者の「気持ち」「背景(文化)」などを考慮した言葉づかい(語法・表現)、その基礎となる文法・発音も意識する必要があります。これらをビジネス英語の側面から確認、確立していきたいと思えます。

DBSで学ぶ皆さんにとって、現代の、そして次世代の国際社会で活躍するためのプログラムになることを祈念しています。



山田 正義  
やまだ まさよし

主な共著書:「TOEIC® TEST 470レベル 文法・語法・語彙」「同600レベル」「同730レベル」「Score High on the TOEIC® Test」「ジーニアス英和辞典」「ジーニアス和英辞典」「ジーニアス英和辞典活用問題集」「ベーシックジーニアス英和辞典」「アクシスジーニアス英和辞典」、文科省検定高校英語教科書など。

#### 入学相談



大橋 亜子  
おおはし あこ  
企業派遣担当  
プログラムディレクター

ビジネス研究科には、「DBSでは何を学ぶことができるのか」「仕事との両立や、学ぶためにはどのくらいの時間的余裕が必要か」など様々な入学に関する相談が寄せられます。このような相談に対応するため、適宜入試説明会を開催するほか、オープンスクールを実施し、実際の授業を体験していただく機会を設けています。

説明には、専任教員ならびに専門のプログラムディレクターが当たり、入学に関する個別の相談に常時対応する体制を整えています。また、留学生や海外ビジネススクールとの連携についても相談に応じています。

企業派遣をお考えの方については、企業派遣担当のプログラムディレクターが窓口となり、企業を訪問しての説明にも対応しております。

#### キャリアアドバイス



篠原 理子  
しのはら りこ  
キャリアアドバイザー

企業で長年様々な業務に携わってきた経験豊かなアドバイザーが、ビジネス研究科専従のキャリアアドバイザーとして、企業内におけるキャリアパスに関する相談、新たなキャリアに向けての相談など、キャリアに関する様々な相談に応じています。

また、本学キャリアセンターにも、キャリアカウンセラーやアドバイザーが常駐し、いろいろなアドバイス、情報提供を行っています。寒梅館3階には、キャリア関連の資料を集めたコーナーも設けています。

#### 様々な機会を通じて本研究科の紹介・入学相談を実施しています。

- 授業公開：本研究科の実際の授業の一部を聴講いただけます。
- オープンスクール：専任教員、修了生・在校生が本研究科の説明や入学相談に応じます。
- 入試説明会：秋・春それぞれの入試について説明をいたします。  
※日程等詳細につきましてはビジネス研究科ホームページ  
(<https://bs.doshisha.ac.jp/>)をご覧ください。
- 個別相談：常時受け付けています。

相談をご希望の方は下記へご連絡ください。

TEL:075-251-4600/FAX:075-251-4710  
E-mail: [ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp)

#### 問合せ・入試要項請求

# DBS

同志社ビジネススクール

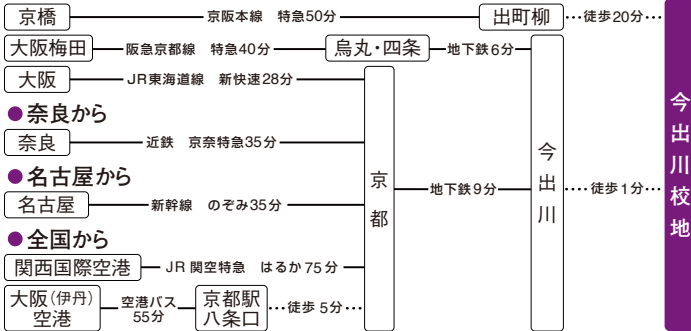
同志社大学大学院ビジネス研究科  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL 075-251-4600 FAX 075-251-4710  
E-mail [ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp)  
URL <https://bs.doshisha.ac.jp/>

ビジネス研究科ホームページの「お問い合わせ・資料請求」ページより請求してください(無料)  
<https://bs.doshisha.ac.jp/inquiry/inquiry.html>

## 今出川校地 寒梅館



### ●大阪・神戸・京都から



〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
 TEL 075-251-4600  
 地下鉄「今出川」駅／徒歩1分  
 京阪「出町柳」駅／徒歩15分  
 E-mail [ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp)  
 URL <https://bs.doshisha.ac.jp/>

## 大阪サテライト・キャンパス



〒530-0001  
 大阪市北区梅田1-12-17  
 梅田スクエアビルディング17階  
 TEL 06-4799-3255  
 JR線「大阪」駅／徒歩3分



同志社大学  
**DBS**

同志社ビジネススクール

同志社大学大学院ビジネス研究科